周布公平譯

リウイエール氏

佛國商法詳說

亡産及倒産篇

全

翻譯課

司法省文庫
和書門
政治及法律部
七三四號
函
架
一冊
100

司法省

B400
R 1
2

佛國商法詳說

第三篇

亡産及倒産ノ事（ファイト、バンクルート）

亡産ハ不慮ノ損失ニ因リテ破ル者倒産ハ自ラ損失ヲ招キテ産ヲ破ル者ヲ云フ

千八百三十八年五月二十八日決定仝年六月八日布告ノ法律

註千八百三十八年ノ法律ハ前序アリ此序ハ盡シ千八百七年九月十二日ノ決議ニシテ仝月二十一日頒布スル所ノ商法第三篇及ヒ商法第六十九條第六百三十五條ヲ廢棄セルモノナリ然レトモ此法律（千八百三十八年ノ法律）頒布前ニ公告シタル亡産ハ商法ノ旧規ニ照準シテ處分スヘキヿヲ許セリ但シ復權（リヒビリタシヨン）及ヒ貸額（アクシヤトリ）不足ノ時亡産ノ結局ニ於テハ商法第五百二十七條及ヒ第五百二十八條ノ施行ニ関スルモノハ此ノ限ニ在ラストセリ

總規則

第四百三十七條○本條ニ曰ク亡産ハ商人タル者其支償（ペマン）ヲ謝絶シタル者ノ實況ナリト故ニ商人タル者（一）ニシテ其支償ヲ謝絶シタル者ニ非

サルヨリハ亡産ヲナスヿヲ得ス其亡産ト稱ス
ルハ必ス商人ノ本事ト支償ヲ謝絶スルトノ二
項アル者ニ限ル

註(一)現ニ商人タルノ本事及ヒ權利ヲ有スル
者ヲ要ス故ニ縱令從前商業ヲ營ムト雖トモ
未タ之ヲ允サレサル幼者ハ商法第二條ヲ參
觀スヘシ支償ヲ謝絶スト雖モ之ヲ亡産ト謂
フヲ得ス又男夫ノ特許或ハ默許ナキノ婦妻
モ亦之ニ仝シ而シテ通常或ハ詐偽ノ倒産人
トシテ之ヲ訴訟スルヲ得ス

二

平素人(シヤウソウメルサン)商業ヲ營マサルモノ(ヲ云フ下之ニ倣フ)ハ條約ヲ守ラサル
者ト雖トモ之ヲ亡産ノ區域ニ在ルト謂フヘカ
ラス盡シ之ヲ稱シテ分散(デコンクヮチュール)ト謂フ

註然レトモ公職ニ在リテ商業ヲ禁止セラレ
シモノ其禁ヲ犯シテ之ヲ營ミ支償ヲ謝絶セ
シトキハ其破産ヲ公告スルヲ得ヘシ即チ常
ニ商業ヲ營ミシ公証人(ノータール)代言人(アヴカート)及ヒ代書人(アヴーエ)ノ
如キ皆是ナリ盡シ是等ノ職業ハ緊シテ商人
タルノ性質ニ矛盾スト為ス者ニ非ス幼稚若
クハ婦妻ノ如キ不耐者ト異ナレバナリ

其分散ナルモノハ何ソヤ平素人其債額ノ貸額ニ過クルヲ以テ其債主ニ辨償スル能ハサルモノヽ實況ヲ謂フ然レトモ拿破侖法典ニハ猶ホ本タ此規則ヲ立テサルカ故ニ其如何ナルモノタルヲ明言スル能ハス

然レテ亡産ノ成レルモノハ商人ノ支償謝絶ナリト商法第四百三十七條ニ之ヲ明言セリ○則商人縱令債額貸額ニ過クト雖トモ尚ホ債主ニ支償ヲ為シ得ルトキハ之ヲ亡産ヲ為セリト謂フヲ得ス又縱令貸額ハ債額ニ超ユルト雖トモ故ナクシテ支償ヲ謝絶スルトキハ之ヲ亡産ヲ為セリト謂フヲ得ヘシ

凡ソ支償謝絶ノ判然タル經界ハ甚タ之ヲ明言スルニ難ム何トナレハ立法者ハ此語ニ付テ更ニ明辨ヲ與ヘス政府ノ決定モ亦特ニ裁判官ノ所見ニ在リトノミ云ヘハナリ(一)故ニ一般ノ規則ヲ定ムルハ殆ント能ハス

(一)註哥耳馬爾地名裁判院ノ說ハ商法第四百三十七條ニ依リテ商人全ク其資本ヲ失ヒ支償謝絶ヲ為シタル時ニ非サレハ亡産ヲ公告ス

ルヿヲ許サス縱令全ク謝絶ニ至ラストモ商人其條約ヲ完ヿシテ商業ヲ保續スル能ハサルヲ確認セサルヘカラス

然レトモ商人其負債ヲ償フ能ハサル實況ニアラス又其營業ニ障碍アルニアラスシテ其支償ヲ謝絶セシヲ以テ亡産ノ名ヲ加フヘカラス乃チ買賣ノ無効ニ歸セシト認ムルモノヲ全活スルヲ謝絶シ或ハ未タ辨償ノ期至ラサル負債ヲ拂フヿヲ辭スル如キ是ナリ

凡ソ負債人支償ヲ謝絶スル所ノ條約（アンガーヒヨン）ハ商事ニ關スルヲ要ス故ニ民事ニ關スル條約ヲ完全スルヲ謝絶スト雖トモ亡産ノ原由中ニ入ルヽヲ得ス盡シ亡産ノ實況ヲ成セルモノハ商事ノ信認ヲ失フニ在リ其信認ハ商事ニ關スル條約ヲ完全スル間ハ終始之ヲ保存スルモノナリ

但シ路安裁判院ノ云ヘル如ク民事負債ノ支償謝絶ハ公審ノ際ニ發見セシ所ノ他ノ事項ト勘合シテ商人商事上ノ條約ニ違反セシハ何日以來ナルカヲ認ムルヿニ用フルノミ故ニ民事負債ノ支償謝絶ハ破産ノ期ヲ量ル權衡ノ錘トモ

註凡テ商人其營業上ノ條約ヲ完フスルヲ得サル時ハ民事上ノ債主ニテモ本人ノ亡産ヲ公告セシムル權利ヲ有スルヲ後項ニ見ルヘシ

或人ハ乃チ之ニ反シテ商人ノ負債支償ヲ謝絶シタル時ハ商事ト民事トヲ論セス亡産ヲ公告セラルヘシト為シテ曰ク商法第四百三十七條ハ文意簡約ニシテ負債ノ種類ヲ分タサルニ論者何ソ斯ノ如ク彼此ノ區別ヲ立ルニ煩ハサン且ツ控訴院ノ決議中ニモ此意義ニ據テ判決スルモノ往々之レアリト

今破産ノ實況ヲ認ムルニ在テ何ソ必シモ凡テノ支償ヲ謝絶スルニ関セン千八百七年ノ商法草案中ニ猶ホ凡テト云フ語アリシカ「トリブュナ」千七百九十九年ヨリ千百八年ニ至ル佛國ノ議院ノ會議ニ曰リテ之ヲ削除セリ若シ然ルニ非サレハ負債人既ニ信認ヲ失ヒナカラ瑣少ノ支償ヲナシテ尚ホ信認ヲ有スルヲ証據トスルコトアラン

裁判事例（シュリスプルデンス）ニ依ルニ法律ノ意支償謝絶ハ債主ノ員數ニ拘ハラス特ニ負債商人ノ實況ニ関係ス

故ニ徒ニ一人ノ債主ヲ有セル商人モ亡産ヲ公告スルヲ得ヘシト○然レトモ斯ノ如キ時ニ於テハ亡産事件ニ就テ法律上ニ掲載スル所ノ諸規則中ニ施行スヘカラサルモノ多シ

論者輙モスレハ支償謝絶ト停止（レヒュジョン）トノ間ニ區別ヲ立ツヘキヤ否ヤノ言アリ

千八百七年ノ商法施行ノ際ニ當リテ一論者ハ支償停止ハ亡産ノ實況ヲ成セルモノニアラスト抗論セリ盍シ商人ハ毫モ資金ヲ有セサルニ至ラサレハ亡産セサルモノニシテ嚴重ナル破

産規則ハ貸額ノ債額ニ超ヘ唯一時ノ差支ヲ有スル商人ニ之ヲ施スヲ得スト辨說シタリ然レトモ諸論者ハ多ク此論說ヲ駁擊シテ更ニ區別ヲナスヘカラスト為セリ

註然トモ訴訟局（レヤンデルゲーロケート）大審院中ノ一局ノ決議ハ商人支償謝絶ノ期日ハ前キニ一時ノ困難ヲ有セシトモ當時銀行ニ寄置シタル金額ハ後日支償ヲ為スニ餘アリテ果シテ多日ヲ經ス支償ヲ為セシトキニ於テハ此困難ノ時節ニ溯ルヘカラスト定メタリ

斯ク右ノ第二説ニ左袒スル諸論者中ニ或ハ縱令還債ヲ要求スヘキ時期ニ達セシ債主等延期條約ヲナスト雖トモ期限ノ来ラサル債主ハ支償謝絶ノ景況ニ因リテ彼ノ商人ノ亡産ヲ公告セシムルヲ得ヘシト議定セリ

千八百三十八年ノ法律頒布前ニ方テハ商人ノ死セシ後ニ其亡産ヲ公告スルヲ得ヘキヤハ一定ノ論ナカリシカ新法案第四百三十七條第二項ハ生前既ニ支償謝絶ヲナシタル商人ノ亡産ハ死後ニ之ヲ公告スルヲ得ヘシト確定セリ盍シ其亡産ヲナセシモノハ裁判所ノ公告ニ係ルニ非スシテ支償ノ謝絶ニ由レハナリ○此規則ハ極テ切重ナル連續ヲ含メリ何トナレハ諸規則中亡産ノ時ニ非サルヨリハ施行セラレサルモノアルヲ後項ニ見ルヘシ乃チ財産ノ主管ニ関スル規則商人ノ或ル條約ヲ無効ニ帰セシムル推測判決ニ関スル規則及ヒ亡産人婦妻ノ權利ヲ剥減スル規則等ノ如キ是レナリ

或人問フ支償謝絶ヲナシタル商人其前日ニ自殺セシ時ハ於テモ亦亡産ヲ公告シ得ヘキヤ

曰ク二説アリ

第一説○自殺ノ原因ヲ討ルニ窮迫ニ出レハ死後ニ其亡産ヲ公告スルヲ得ヘシ盍シ道理ヨリ之ヲ論スルモ不幸ノ負債人ヲシテ妄ニ自殺ノ念ヲ生セシメサランカ為ニ之ヲ許サヽルヘカラス

第二説○法律ノ文明確ナリ曰ク死者ノ亡産ヲ公告シ得ルハ生前支償ヲ謝絶セル者ニ係ルト盍シ之ヲ約言スレハ支償謝絶ノ實況中ニ死セシヲ去フナリ故ニ死ノ情状如何ヲ問ハス支償謝絶ノ前日ニ死セシ者ノ亡産ヲ死後ニ公告スルヲ得スト是レ吾輩カ所見ナリ

右兩説ノ可否如何ヲ論セス死後ノ亡産ハ吾輩後項ニ説明スルカ如ク官ノ職務ヲ以テ之ヲ發言スルモ人民ノ請求ニ依ルモ後一年ヲ限リテ之ヲ公告スルヲ要スルハ明確ナリ○此期限ハ債主等ヲシテ負債人ノ亡産ヲナスニ及ヘル場合ヲ明瞭ナラシムルニ充分ノ日數タリ又日數甚タ長久ニ過キサレハ亡産公告ノ為ニ死後ニ相続ノ争論ヲ生出スルノ憂ヘナカルヘシ但シ

債主一年内ニ亡産ヲ訴訟セレトキハ裁判所ハ一年ヲ踰ユト雖トモ之ヲ公告スルヲ得ルハ言ヲ待タス何トナレハ判事ノ注目スヘキハ唯訴訟ノ日ニ在レハナリ

商人ニ非ラサレハ亡産ヲナスヘカラスト雖トモ賣買ヲ停メ商業ヲ廢セシモノヽ亡産ヲ公告スルヲ得サルニアラズ然レトモ其亡産ヲ公告シ得ルニハ商業ヲ廢セシトキ既ニ支償謝絶ノ現況中ニ在リシコトヲ要ス廢業ノ際未タ信認ヲ失ハス廢業後ニ支償謝絶ヲナセシモノハ亡

産ヲ公告スルヲ得ス

大審院ノ説ニ依レハ商法第四百三十七條ノ旨意ハ許可ヲ得スシテ佛國ニ住スル外國人タリトモ商業ヲ営ミ支償ヲ謝絶セシトキハ其亡産ヲ公告スルヲ得ヘシ此點目ニ在テハ法律ハ佛國現住ノ内外人民ニ要求スル所ノ警察法ノ如キ性質ヲ有ス

註千八百五十七年十一月三十一日ノ訴訟局ノ決議ニ外國人ノ佛國ニ在テ商業ヲ営ムモノハ佛國裁判所ニ於テ其亡産ヲ公告スルヲ

得ヘシ但シ外國人自己ヨリ申告スルモ債主ヨリ請訴スルモ裁判所ノ職務ヲ以テ宣告スルモ皆同一トナス

亡産ノ方法トハ吾輩今方ニ研究セントスル所ノ諸規則ニシテ即チ支債ヲ謝絶セシ即チ亡産ヲナセシ商人ニ施行スル所ノ總諸規則ヲ謂フ

先ツ此規則ノ二三ヲ掲載スルニ亡産ノ實況ハ裁判ヲ以テ之ヲ公告スルヲ要スル亡産人ハ財産ヲ主管スルノ權利ヲ失フ亡産代管人(サンジキ)ト稱スル主管人(アドミニストラトル)ヲ設ケ主任判事一名ノ監督ヲ受ケテ亡産人ノ財産ヲ管セシムル諸債主各自ニ負債人ニ對シテ處分ヲナスノ權利ヲ禁止スル亡産人ノ條約ヲ無効ニナスヲ得ヘキ法律上ノ推測判決ヲ為スコト亡産人ノ婦妻ノ權利ヲ減縮スル諸債主ハ衆員ノ承諾スル所ノ條約「コンコルダー」(債主ト負債人トノ間ノ條約ノ名)ニ協同スベキコト等ナリ此諸規則ハ之ヲ分産ニ施行スヘカラス盡シ平素人ハ其債主ニ辨償スル能ハサルノ場合ニアルトモ裁判ヲ以テ其現況ヲ公告セス財産ヲ主管スルノ權利ヲ失ハス諸債主ハ

各自ニ負債人ニ對シ訴訟ヲ為スヿヲ得且ツ時宜ニ因リテハ負債人ノ承諾セシ賣産及ヒ他ノ處分ヲ批駁スルヿヲ得ルト雖トモ拿破侖法典第千一百六十七條亡産ノ規則ニ在テ負債人ノ支償ヲナス能ハサルニ至ントスルノ際ニナセシ條約ヲ破却シ得ル如キ法律上ノ推測判決ヲ施スヿナシ婦人ノ權利ハ拿破侖法典中ニ定ムル如ク更ニ減スルヿナシ債主ハ他ノ諸債主ノナセシ條約ニ獨リ合同意セサルヲ得ヘシ

亡産ト倒産トハ其意同シカラス亡産ハ既ニ說明セシ如ク支償ヲ謝絶セシ商人ノ現況ヲ謂フ倒産ハ徒ニ支償ヲ謝絶セシノミナラス商法第五百八十三條及ヒ第五百八十六條ニ豫示セシ大ナル失錯或ハ商法第五百九十一條ニ掲示セシ詐偽アリテ犯罪ノ事項ヲ有スル商人ノ現況ヲ謂フ吾輩第二篇ニ之ヲ辨明スヘシ

第一章亡産公告ノ事及ヒ其公告ノ効力

此章ハ亡産公告ノ事裁判宣告ヲ以テ公告セシ亡産ノ効果及ヒ支償謝絶ノ日若クハ支償謝絶ノ前十日ト亡産公告ノ日ノ間ニ於テ為セシ亡産人ノ條約上ニ生スヘキ亡産ノ効果等ヲ論ス

第四百三十八條○凡テ支償ヲ謝絶セサルヘカラサルヲ自認セシ商人ハ住所ノ商事裁判所ノ書記局ニ報告スルモノトス但シ其住スル所ノ郡内ニ商事裁判所ナケレハ民事裁判所ノ書記局ニ之ヲ報告スヘシ○此報告ハ支償ヲ謝絶セシ日ヨリ三日内ヲ限リ之ヲ為スヲ要ス○法律ハ此期限ヲ甚タ短ク決定セリ盡シ亡産ノ現況ハ速ニ之ヲ検定シ以テ衆庶ニ報告スルヲ要スレハナリ

會社ノ支償ヲ謝絶スルトキハ亦三日ノ期限内ニ會社ノ本舗所在地ノ商事裁判所ニ其旨ヲ報告スルヲ要ス但シ合名會社（ソシエテー・ヴァンコレクティフ）ナレハ社中各員ノ姓名住所ヲ記スヘシ（商法書式（フォルミュレール）或第百二十一号ヲ参看スヘシ）差金會社（ソシエテー・ヴァンコマンディット）ナレハ一名若クハ數名ノ主任社員ノ姓名ヲ記スルノミ

人アリ問フテ曰ク會社ノ亡産ハ連帯即チ責任

ノ各社員ノ亡産ニ株連スヘキハ當然ナルヤ

第一説○會社亡産ヲ為セシト雖トモ社員自己ノ亡産ヲ為スヘキノ理由ナシ何トナレハ亡産ヲ為スニハ自己ノ支償ヲ謝絶セシヲ要ス然ルニ會社ノ成立ト社員ノ成立トハ判然差別アルモノニ係ル會社ハ支償ヲ謝絶セシト雖トモ社員ハ支償ヲ謝絶スルヲ須ヒサルナリ

會社ノ債主等ハ社中ノ各員ニ對シテ約條ヲ連ヌルハ勿論ナルモノニシテ各員モ亦株連シテ負債ノ義務ヲ有スルハ言ヲ待タスト雖トモ債主ノ催迫ヲ受ケナカラ金ヲ辨償セサル社員ニ非サルヨリハ各員ノ亡産ヲ各自ニ請求スルヲ得ス

第二説○吾輩ノ説ハ會社ノ亡産ハ勿論各社員ノ亡産ニ株連スルモノトナス何トナレハ法律此主義ヲ許諾シ商法第四百三十八條ヲ以テ會社ノ亡産ヲ為セシトキ支償謝絶ノ報告書ニ各社員ノ住所姓名ヲ記スルコトヲ要求スレハナサ且ツ第四百五十八條ヲ以テ連帶各社員ノ居宅ニ封籍ヲナスコトヲ要求セリ又第五百三十

一條ニ商社ノ亡産ヲ為ストキハ債主等社中ノ一員若リハ數員ノ為メノミニ付キ「コンコルダ」ヲ承諾スルコトヲ得ヘシト決定セシハ則チ連帶社員各自ノ亡産ヲ認メシハ判然タリ殊ニ千八百三十八年四月四日民撰議院ニ於テ法律僉議ノ際議員中ニ右ノ第一説ヲ採用スヘシト動議セシモノアリシカ議院ハ吾輩ノ此ニ保持スル所ノ説ニ歸宿セリ

大審院ノ決議ニ商社ヲ退去セシ舊社員タリトモ退去セシトキ其商社ハ既ニ支償ヲ為スコト能ハスシテ後遂ニ亡産ヲ為スニ至ルトキハ現在ノ社員ト一體ニ其亡産ヲ公告スヘシトセリ

又無名會社（ソシエテー、アノニーム）ハ亡産ヲ為シ得ルヤ否ノ問題ハ論者ノ討論ニ係リシ一大問題タリキ

論者等謂ラク無名會社ノ支償謝絶ヲ報告スヘキ人員及ヒ方法ハ法律中ニ掲載セサルヲ以テ其亡産ヲ為スコトヲ得サルハ判然タリ且ツ無名會社ハ資本金ノ集合アルノミニシテ人員ノ集合アルニ非サレハ則チ主亡産セシモノアルニ

非ルヨリハ會社ノ亡産ヲ為スコトナシ

他ノ論者等ハ一説ヲ立テヽ曰ク設令無名會社タリト雖トモ亡産ヲ為スヲ得ヘシ蓋シ法律ノ明文ナキヲ以テ會社及ヒ其債主各員ノ為ニ緊要ナル處置ヲ禁斷スヘカラサルナリ

假令此説ヲ可トナストモ法律上ニ不明ノ項アルヲ認メサルヲ得ス何トナレハ法律ハ支償謝絶ヲ報告スヘキ人員并ニ報書中ニ記載スヘキ事項ヲ指示セス

共分會社（ソシエテー アンバルケンシヤル）商人数名集合シテ一時ノ賣買ヲ共ニシテ其利ヲ分ツモノヲ云フニ就テハ其性質ヲ決定スル為ニ種々ノ論議アリシハ読者ノ知ル所ナリ（原昏百四十三葉及ヒ其次葉ヲ見ルヘシ）此會社ノ目的ハ商賣上ノ一件事若クハ数件事ヲ同營スト云ヘル説ヲ可トスルトキハ會社ノ一物（ペルソナリテー）タルヲ認ムルトモ尚ホ會社ヲ亡産セシムルノ理ナキカ如シ何トナレハ一二件ノ商事ヲ同營スト雖トモ完全ノ商事會社ト謂フヘカラサルヲ以テナリ

又吾輩ノ所見ノ如ク共分會社ハ商業ノ増殖ハ如何ナル景況タリトモ社中一員ノ名ヲ以テ事

務ヲ管シ普通ノ社名ヲ須ヒサルモノトスルモ亦會社ヲ亡産セシムヘカラス何トナレハ一物タルノ性質ヲ有セス故ニ獨リ主管社員ノミ亡産ノ現況ニ在リテ支償謝絶ノ報告書ニ記スル

ニ該社員一人ノ姓名ヲ以テセサルヘカラス

第四百三十九条○亡産セシ負債人ハ支償謝絶ノ報告書ニ計算書ヲ附シテ之ヲ出スヲ要ス（書式第百十八号ヲ參着スヘシ）

計算書式ハ第一貸額ノ實數即チ動産不動産ノ目録并ニ概算ノ價直第二債額ノ實況即チ各債

主ノ姓名各債金及ヒ其源由第三利得及ヒ損失ノ細目第四費用ノ目録ナリ（昏式第十九条ヲ參着スヘシ）

第一第二兩項ハ亡産人ノ實況ヲ登記スルヲ以テ主脳トス第三第四二項ハ亡産ノ源由情實并ニ種類ヲ明カニ登記スルヲ主脳トス

諸論者ノ説ニ曰リ利得及ヒ損失ノ細目并ニ費用ノ目録ハ亡産前十年間ニ係ル者ヲ登記スルヲ要ス何トナレバ亡産人計算書ヲ造ルニハ諸牒簿ニ照依スルヲ要シ而シテ法律ニ商人ノ牒

簿保存ヲ要求スルハ十年間ヲ限レハナリ（商法第十一条ヲ参看スヘシ）

他ノ論者ハ乃チ曰ク商業開創即チ造意ノ日ニ溯ルヲ要ス蓋シ十年ヲ過クルトモ牒簿ヲ破棄スル者ハ甚タ稀ナリ且ツ計算書ヲ造ルニハ特ニ營商日記（リーヴル・ビュール・ナル）及ヒ往復書翰（コルレスポンダンス）ノ拔萃ニ依ルノミナラズ且ツ毎年ノ總算簿（インヴァンテール）ノ拔萃ニ依ルヲ要ス然ラサレバ開業以来ノ毎年總算簿ニ確筭ヲ為サヾルノ疑ヒヲ受クルコトアルベシ

計算書ハ負債人其明確ナル證左ヲ附記シ且ツ之ニ月日ヲ附シ姓名ヲ手署スヘシ但シ誓盟ヲ為スニ及ハス

註計算書及ヒ報告ハ特權ヲ附與セシ代理人ヲシテ之ヲ編纂記名セシムルヲ得ヘシ

商事ヲ開張シ若クハ他ノ情況ヲ為メニ三日内ニ計算書ヲ編纂スル能ハサル商人アルヲ以テ法律ハ斯ノ如キ場合ニ在テハ亡産人ニ要求スルニ右ノ規則ヲ定全シ得サルノ源由ヲ指示スルヲ以テセリ（書式第百二十号ヲ参看スヘシ）

支償謝絶ヲ報告セス及ヒ計算書ヲ出サヾルト

キハ亡産人ニ對シテ通常倒産ノ推測ヲ起サシムヘシ（商法第五百八十六條參看）又商法第四百三十八條及ヒ第四百三十九条ヲ遵守セシトキハ商事裁判所ニ於テ亡産人ヲ獄舍ニ入レ若クハ其身ヲ監護スルコトヲ宥免スルヲ得ベシ（商法第四百五十六条ヲ參看スヘシ）

第四百四十條〇吾輩ノ辨明セシ如ク亡産人ヨリ支償謝絶セシコトヲ報告シタルトキハ其住所ノ(一)商事裁判所ハ亡産ヲ公告スル即チ亡産ヲ認定スル所ノ裁判宣告ヲ為ス（書式第百二十二号ヲ參看スヘシ）

註(一)千八百三十九年六月十九日「ブールジユ」裁判院ノ決議ニ設令當テ商業ヲ營ミシ地ニ非ストモ現今其所住ノ地ニ在ルヲ要ス千八百四十二年十二月十九日路安裁判院ノ決議ニ支償謝絶後ニ轉居セシモノハ從前居住セシ地ニ在テ亡産ヲ公告スベシトセリ

若シ両所ノ裁判所亡産ヲ公告セントキハ判事ノ規則ニ於テ何レガ引続テ亡産ノ事務ヲ擔當スベキヤヲ決定ス（治罪法第三百六十三

各商法第四百三十八條

亡産公告ヲ擔當スベキ裁判所ヲ判事ノ規則ニ就テ請求スルニハ亡産代管人ノミニ對シテ之ヲ為スヲ得必シモ亡産人ヲ訴訟スルヲ要セス

註亡産人商舗ヲ各所ニ有スルトキハ本人居住地及ヒ本舗所在地ノ商事裁判所ニテ其亡産ヲ公告スベシ

大審院ノ議ニ曰ク各種ノ商業ヲ各所ニ營ムモノハ同時ニ各所ニ於テ亡産ヲ公告スルヲ得ヘシ然ルトキハ公告前ニ各裁判所ハ債主

ト亡産人トノ便宜ヲ計リ財産ノ處分方法及ヒ各亡産ノ規則ヲ定メザルヘカラス是故ニ各亡産ニ就テ亡産代管人ヲ命スルヲ得ヘシ

諸論者ノ説ニ亡産ノ検覈ハ其特權ヲ有スル商事裁判所ニ非サルヨリハ決シテ之ヲ為スヲ得スト此説ハ緊重ナル二問題ヲ引起セリ即チ民事刑事両裁判所ハ亡産ヲ認定シ得サルカノ事是レナリ

他ノ論者ハ謂ヘラク民事裁判所ハ他ノ民事ノ裁判中ニ發見セシ亡産ノ現況ニシテ未タ商事

裁判所ノ公告ヲ經サルモノヲ認定スルコトアルベシ其說ニ曰ク亡產ハ即チ支償謝絕ナリ是レ自己ニ成立セル事實ニシテ公告ハ特ニ之ヲ確定スルニ止マリ之ヲ生出スルモノニ非ス是故ニ民事裁判所ハ他ノ訴訟ヲ審理スルノ際法律ニ於テ亡產即チ支償謝絕ノ實況アリト認ムベキノ事情成立セルヤ否ヤヲ監定スルヲ要スル而シテ其認定ニ就テハ法律上亡產ニ關スル効果ヲ施スコトヲ得ヘシ即チ支償謝絕ノ為メニ無効タルベキ他ノ條約ヲ宣告スルコト亡產人婦妻ノ權利ヲ減縮スルノ諸規則ヲ施スコト等ノ如キ是ナリ大審院ノ裁判事例ハ乃チ此旨意ニ依レリト

又一說ニ裁判宣告ヲ以テ亡產ヲ公告スルハ商事裁判所獨任ノ職務ナリト主持セリ其論ニ曰ク全ク商業ニ關スル事實乃チ大抵ハ繁混錯雜ナル所ノ事實ノ眞正ヲ斷言スルハ商學ト實驗トニ通曉セル者ニ非ラザレバ其源委ヲ發見スルヲ得ス是レ商事裁判所獨任ノ職務ナルハ疑ヲ容レサル所以ニシテ殊ニ商法第六百三十五

條ノ確律アルニ於ケルヲヤ該條ニ曰ク凡テ廿
七産ニ干渉スル事件ハ商事裁判所該法典第
三章ニ掲載セル規則ニ準シテ之ヲ受理スヘシ
此律意ヲ解スルニ亡産ヨリ生出セシ訴訟爭論
ハ一切商事裁判所ノ任スルモノニシテ第四百
四十四條ニ掲載セル如ク商事判事ノ亡産ヲ公
告セシニ非ルヨリハ訴訟爭論ハ公然生出成立
スルモノニ非ストノ意ニ外ナラス
此第三説ヲ取ル所ノ論者中ノ二名ノ説ニ換事
ハ自ラ倒産ヲ告訴スルノ權利ヲ有セスト而シ

テ刑事裁判所ハ他ノ訴訟若クハ糾問事件ニ関
シ傍ラ商事裁判所ノ未タ公告セサル所ノ亡産
ヲ認定スルノ權利ヲ有セスト云ヘリ
然レトモ一般論者ノ所見ハ皆ナ之ニ反シ裁判
事例モ亦常ニ之ニ反セリ
商事裁判所ニテ亡産ノ成立ヲ公告スルハ必ス
シモ亡産人ノ報告ニ拘ハラス各債主(特權、抵當
ヲ有スル債主ノトモ)ノ請求(一)ニ依リ亡産公布
ノ宣告ヲ為スヲ得ヘシ故ヲ以テ債主先取リノ
權利ヲ有スル所ノ物品ヲ賣却セシトキト雖モ

尚ホ債額ノ全部若シハ幾部分ヲ償フニ足ラスシテ遂ニ無典ノ債主タルニ至ルコトアリ

註(一)亡産公告ノ請求ハ亡産人ニ通知スルコトナク通常ノ願書ヲ以テ之ヲ為スヲ得○然レトモ裁判所ハ負債人ヲ呼喚シテ其辨明ヲ聽クノ権利ヲ有ス○若シ亡産公告ノ請求ヲ還付セラレタルトキハ之ヲ控訴スルヲ得其請求モ亦通常願書ヲ以テス○ツーエ」ノ裁判院決議ニ曰ク他國ノ裁判所ニ於テ為セシ亡産公告ノ申渡ヲ佛國ニ於テ施行ゼントスルトキハ雖モ唯々通常ノ書ヲ出スノミニテ裁判所ニ本人ヲ勾喚スルヲ要セス

還債未タ満期ニ至ラサル債主及ヒ約束債主(クレンシエル、コンシエル)何事ヲ為セハ裁金ヲヲ拂フトスヘル如キ別ニ約束アリテ貸借ヲ為セシモノモ亦負債人ノ亡産ヲ公告センコトヲ請求スルヲ得ベシ

商法第四百四十條ハ債主ノ區別ヲ為スコトナシ何レモ亡産公告ノ言渡ヲ請求スルニ於テハ債主各自ノ権利ヲ保持スルモノトス此権利保存ハ約束債主ニモ亦之ヲ為スヲ許ス(拿破侖法典第千百八十條及ヒ書式第百二十三号及ヒ第

百二十四号ヲ參看スヘシ

負債人商業上ノ負債支償ヲ謝絶セシトキハ特リ民事上ノ證券ヲ有スル債主タリトモ亡産公布ノ宣告ヲ請求スルヲ得ヘシ設令負債人民事上ノ條約ヲ全フスルヲ謝絶セシコトヲ以テ支償謝絶ヲ成立スル事件中ニ算入スル能ハストモ理勢必ス斯ク論定セサルヲ得ス何トナレハ亡産ハ之ヲ分析シ得ヘキモノニ非ス且ツ各債主其現況ヲ利スルモノナルカ故ニ其亡産ノ實況判然ナルトキハ公告ヲ請求スルヲ得ルナリ

○乃チ大審院ハ此意ニ就テ決議セリ

数論者ノ説ニ依レハ亡産ノ實況ハ必ス本人ニ對シテ稍〻失錯ノ告訴ヲ為スニ當ルカ故ニ道理上ニ於テハ子ノ父ニ對シ婦ノ夫ニ對スル亡産ノ公告ヲ請求スルモ之ヲ受理ス可ラズ大抵普通法(アーベ、コンマン)ハ各自ヲシテ負債ノ辨償ヲ結完セシムルニ足ルベシト

又一論者ハ則チ此説ヲ駁擊シテ曰ク法律ノ條則中ニ子ノ父ニ對シ妻ノ夫ニ對スル訴訟ヲ禁スルコトナシ而シテ此ノ如キノ規則ハ決シテ

之ヲ追加スル可ラサルナリト

亦且ツ裁判所ノ職務ヲ以テ亡産ヲ公告スルヲ得ベシ（書式第百二十五條ヲ參看スヘシ）○立法者ハ此権利ヲ商事裁判所ニ附與シテ謂ラク亡産人カ数々其現況ヲ報スルヲ遲滯スルヨリ生出スル所ノ弊害ト又負債人ト現在債主トノ間ニ結フ所ノ密約ヲ防閑スヘシト盍シ此密約ハ現在債主ハ負債人ヨリ多少ノ典物ヲ受ケ為ニ不在債主ノ損害ヲ顧ミスシテ亡産ノ公告ヲ請求セサルノ弊害ナリ

亡産公告ノ言渡ハ㈠假ニ之ヲ實施スルヲ得言渡ヲ為シタル以上ハ設令別ニ裁判所ノ命アラサルトモ或ハ亡産人不服ヲ抱クトモ直チニ之ヲ施行スルヲ得ヘシ盍シ斯ク至重ナル判決ヲ施行ハ之ヲ遲延若クハ遮断スヘカラザレバナリ㈡

註㈠此裁判宣告ハ衆人中ニテ之ヲ為スヲ要ス

㈡本人不在ニテ亡産ヲ公告セシ言渡ハ總テ商事裁判所ノ他ノ不在人宣告ノ例ノ如ク訴

訟法第百五十六條ニ準據ス即チ亡産公告ノ日ヨリ六月内ニ之ヲ施行セザルトキハ無効ノモノト見做スヘシ

第四百四十一条○吾輩既ニ辨明セシ如ク商事裁判所ハ亡産ヲ公告スルヲ任スルノミナラス同一緊重ナル他ノ任モ亦之ヲ有ス何ソヤ亡産ヲ為ス所ノ支償謝絶ヲ始メタル時日ヲ記認スルコト是レナリ譬ヘハ商人普利摸士ハ千八百六十九年一月二日亡産ヲ為スト公告スルヲ得又ハ商人普利摸士ハ千八百六十八年一月二日

ヨリ支償謝絶ヲ為シ此亡産ヲ現出セシト公告スルヲ得ヘシ其差異甚タ大ナリ

亡産ノ時日ヲ記認スルハ實ニ切要ト為ス盡シ亡産時日後ニ亡産人ト結ヒタル條約中及ヒ時日前十日間ニ為セシ條約中法律上ノ推測判決ヲ以テ之ヲ無効トナスモノ少ナカラズ

是故ニ商事裁判所ハ亡産公布ノ宣告ニ依リ若クハ其以前職務ヲ以テ或ハ債主等ノ請求ニテ主任判事ノ上申ニ就テ為セシ裁判宣告ニ依リテ商人ノ支償謝絶ノ時日ヲ記認スルヲ要ス

註七産人延期條約ヲ為セシ後数々違約ヲ為シ現ニ其商業ヲ保ツト雖モ復々回復ノ目的ナキニ於テハ該商人亡産ノ時日ヲ延期條約ヲ為セシ日ニ溯リテ起算スヘシ

若シ商事裁判所支償謝絶ノ時日ヲ指示セサルトキハ亡産公布ノ宣告ヲ為セシ日ヲ以テ時日ト認ムヘシ

然レトモ此規則ハ次項ノ抵牾ヲ起セリ而シテ千八百三十八年ノ法律僉議ノ際論者既ニ之ヲ陳示セリ

盡シ亡産人ノ死後ニ於テ亡産ヲ公告シ得ルハ吾輩ノ知ル所ナリ然ルニ商事裁判所若シ亡産ノ時日ヲ指示セザルニ於テハ第四百四十一條ノ末則ニ依テ公告ノ言渡ヲ為セシ時ヲ以テ亡産ノ時日ト認メザル可ラズ之ヲ約言スレハ亡産ノ時日ヲ死後ニ置ヤザル可ラス何トナレハ吾輩ハ死後ニ宣告ヲ為セシモノト假定スレハナリ然レトモ此論ノ如クナレハ第四百三十七條ト相吻合セサルナリ何トナレハ該條ハ生前ニ支償謝絶即チ亡産ヲ為セシモノニ非ルヨリ

ハ死後ニ亡産ヲ公告スルヲ許サスト謂ヘリ
故ニ論者アリ死亡商人ニ對シ亡産公告ノ申渡
ヲ為スニ支償謝絶ノ時日ヲ指示セサレハ其死
亡ノ日ヲ以テ其時日ト認ムベシト為セリ然レト
モ世人ハ敢テ此説ニ左袒セザリキ
右等ノ諸説ノ孰レヲ以テ是トナストモ諸論者
ハ乃チ日々支償謝絶ハ遅クトモ本人死亡ノ日
ヨリ之ヲ起寛スルヲ要ス決シテ公布ノ宣告ヲ
為セシ日ヨリ之ヲ起寛スヘカラス
一ノ論者等自々裁判所亡産公布ノ宣告ヲ為セ

シニ破産ノ時日ヲ指示セザルトキハ債主等之
ヲ請求スルヲ要スヘシ
凡ソ亡産公布ノ宣告ニ依テ決定セシ支償謝絶
時日ハ尚ホ假定ニ属シテ裁判所ハ後チニ之ヲ
改定スルヲ得ベキハ論者ノ皆ナ知ル所ナリ是
レ商法第五百八十一条ヨリ生出スルニ係ル盍
シ該條ハ支償謝絶ノ日ヲ既ニ決定セシ時日ヨ
リ他ノ時日ニ定メシム為ニ債主ヨリ訴訟ス
ルヲ得ヘキ期限ヲ掲示シタルヲ以テ此期限内
ニハ後次ノ言渡ハ支償謝絶ノ時日ヲ改定シ得

ルヲ隱然許可セシナリ

第四百四十二条○亡産公布ノ宣告書及ヒ亡産ノ時日ヲ決定シ若クハ改定セル宣告書ハ尤モ切要ニシテ之ヲ世人ニ知ラシムルヲ要ス乃チ其撮要ヲ貼示シ又タ之ヲ諸新聞ニ挿載ス盡シ廣ク之ヲ公ニセンカ為ニ法律ノ定ムル所ノ方法ニ循ヒ亡産ヲ報告シタル裁判所在地ト亡産人ノ舗店アル各地ノ新聞紙ニ登記シ且ツ貼示ヲ爲スベシ（書式第百二十六條及ヒ第百二十七条ヲ參看スヘシ）

註貼示ハ裁判所附屬ノ代書人タリトモ書記官ノ如ク之ヲ検點スルヲ得ベシ

痾連安裁判院ノ決議ニ曰ク初メ裁判所ノ宣告書ヲ以テ決定セシ亡産ノ時日ヲ保持セル言渡ハ貼示及ヒ新聞登記ノ規則ニ準セズト

○吾輩ハ裁判宣告ニテ公告セラレシ亡産ノ本人財産上ニ緊重ナル効験ヲ有スルヲ検窮セントス此効験ヲ分ツテ四種ト為ス第一失權（デロベストス）財産ヲ主管スルノ權ヲ失フコト（第二諸債主各自ニ訴訟ヲ為スノ禁止第三亡産人ニ對シテ各負債

ノ要求権(ヨキビヒリラ)第四負債利息ノ停止是ナリ

註亡産人ノ身上ニ生出スヘキ亡産宣告ノ結果ハ吾輩後項ニ之ヲ辨明スヘシ

第四百四十三條及ヒ第四百五十條○第一失権

○亡産公布ノ宣告ヲ為セシ以往ハ㈠亡産人ハ其商事ニ関スルト否トヲ問ハス總テ動産及ヒ不動産ヲ主管スルノ権ヲ失フ可シ

註㈠凡ソ亡産ヲ公告スヘキ言渡ヲ為ス以前ニハ失権ヲ為スモノニ非ス然レトモ裁判事例ニ依レハ亡産人ハ宣告本日ヨリ其権ヲ失フヘシ而シテ宣告書ニ時刻ヲ記セサルカ故ヲ以テ午後第二三時ニ宣告ヲ為スト雖トモ亡産人ノ失権ハ該日ノ早朝ヨリ起ルヘシ是故ニ亜密安(アミヤン)及ヒ「メツ」ノ裁判院ハ亡産人亡産宣告ノ本日ニ為セシ支償及ヒ領受金ハ皆ナ無効タルヘシト決定セリ又大審院ハ宣告本日ニ為セシ「セーシー、ダレー」(債主甲負債人乙ヨリ辨償ヒザルヲ以テ乙ノ負債人㈣ニ就テ乙ニ返金スルヲ拒ム所ノ抗御ヲ云フ)ハ之ヲ破棄スヘシト決定セリ○克列諾威(クレノヴル)裁判院ノ決議ニ亡産公布ノ宣告ヨリ生セシ失権ハ別ニ之ヲ

廣告セスト雖トモ衆庶ハ之ヲ知ラストヱフヲ得ス

然レトモ失権ハ暫ク其所有権利ノ施行ヲ停止スルノミニテ其所有権利ヲ剝奪スルモノニ非ス○故ニ亡産人後日「コンユルダー」ノ依テ其商事ニ復業スルヲ得ルトキハ吾輩後項ニ辨明スル如ク裁判所ヨリ更ニ復権ヲ宣告セスト雖トモ再ヒ該権ノ施行スルヲ得ヘシ○失権ハ亡産公布ヲ宣告スル法律上ニ連接シテ生スルモノナレハ此宣告中ニ特別ノ規則ヲ要セザルヤリ○又裁判

所ハ亡産人ヲシテ失権ヲ免カレシムルヲ得ス亡産公布ノ宣告後ニ結ヒシ亡産人ノ條約ハ失権ノ財産ニ関スルカ若クハ債主ニ損害ヲ賠ルヘキトキハ凡テ無効タルヘシ但シ之カ為ニ亡産人ト條約ヲ結ヒシ者ノ心事ノ正否如何ヲ問フニ及ハス

亡産人ハ諸債主中獨リ一名ノ為ニ先取ノ事由ヲ承諾スルヲ得ス凡テ亡産公布ノ宣告後ニ承諾セシ先取ノ事由ハ言渡ノ日ニ成立セシ諸債主ニ對シテ無効タルヘシ

然レトモ亡産公布後ノ所得物ノ報果ト見做サレタル義務ヲ盡クスコトヲ保護スル所ノ特權及ヒ抵當ヲ維持セサルヘカラス其一例ヲ擧ケンニ若シ亡産人一ノ遺留ノ財産ヲ讓受ケシト雖モ其財産中ニ子孫又ハ他人ニ後日讓渡スコトヲ要スル部分アルトキハ其讓受人等ハ右ノ財産中ニ合法ノ特權ヲ有スルヲ以テ亡産人ノ債主等ニ向ヒ其權利ヲ保存スルヲ得ヘシ又亡産人ハ其財産ヲ他人ト分受スヘキトキハ分受人等ハ亡産人ニ歸セシ不動産上ニ就テ「スウルト」分受人中餘計分前ヲ得タルモノ㊀金若クハ他物ヲ以テ其割合高ヲ他ノ分受人㊁ニ引渡シ平均ヲ立ツルヲ償ハシムルノ特權ヲ有シ此特權ハ亡産人ノ債主等ニ對シテ之ヲ保存スルコトヲ得ヘシ若シ然ルニアラサルトキハ債主等ハ継続人若クハ分受人ノ損害ニ就テ獨リ利ヲ占ルヲ得ヘシ

亡産公布ノ宣告前ニ得有セシ特權及ヒ抵當物ト雖トモ未タ公簿ニ登記セザリシモノハ宣告後之ヲ公記シテ用ヲ為サシムルヲ得ス（商法第四百四十八條第一項）吾輩後項ニ之ヲ見ルベシ

盗シ失権ヨリ以往ハ債主タルモノヽ性質ハ確定シテ復タ之ヲ変スヘカラス

最モ亡産人ハ禁権（財産ノ主管及ヒ身體ノ自由ヲ禁セラルヽコト）ニ羅ルモノニ非スシテ吾輩前キニ陳述セシ如ク貸額ノ多少ニ関スルヲ以テ無効ニ帰スベキ處分ヲ除クノ外ハ尚ホ之ヲ為スノ権利ヲ保有セリトス

右ノ主義ニ依テ亡産人ガ新タニ製造物件ニ従事シ新財産ヲ得有シ且ツ新貸金額ニ関スル條約ヲ記載シ定結スルヲ得ヘキハ世人ノ公同ニ

許認スル所ナリ

然レトモ失権ナルモノハ亡産公布ノ宣告ノ日ニ所有セシ財産ノミナラス且ツ亡産中ニ継続領受シ若クハ物件製作等ニ因テ利シ得ル所ノ財産ニ波及スベシ

註巴里裁判院ノ決議ニ曰ク失権ハ亡産人自己製作ノ利益ニ波及ス但シ此利益上ニ於テカ業ノ賞タル部分ハ亡産人ニ附與セサルヘカラス

凡テ此失権ハ亡産人自己ノ財産上ニ施行スル

ノミニシテ父若クハ夫又タ後見人ノ職ヲ以テ主管セル財産ニ関セザルハ明確ナリ

吾輩既ニ言ヒタル如ク亡産人其財産ヲ主管スル權ヲ失ヒシ以往ハ其財産ニ就テノ訴訟ハ亡産人ニ對シテ之ヲ為スヘカラス故ニ法律ニ曰ク亡産公布ノ宣告ヲ為セシ以往ハ凡テ動産若クハ不動産ニ関スル訴訟ハ嗣後亡産人并ニ諸債主ノ代理タル亡産代管人ニ對シテ之ヲ為シ若クハ保続(宣告前ニ負債人ニ對シテ為セシモノナレハ)セサルヘカラス

法律ハ亡産人ニ對スル訴訟ニ関スル場合ニ就テノミ之ヲ謂フト雖モ亡産人モ亦主管ノ権利ヲ失ヒシ財産ニ関スル事件ニ於テ原告人ト為リテ申訴シ若クハ従前ノ申訴ヲ保續スル能ハサルハ言ヲ待タスシテ明カナリ

註然レトモ大審院ノ決議ニ曰ク亡産人ハ亡産以後勞力ノ料價若クハ雇工ノ給金トシテ自己ノ勉力ニ依テ新ニ利得セシ金額ノ支償ヲ自己ノ名ヲ以テ訴訟スルノ権利ヲ保存セリト亡産代管人ガ各債主ノ権利ノ施行ノ為

ニ處置ヲ為スニ非サルヨリハ亡産人ノ負債人亡産人ノ實況ヲ知リテ故ラニ之ト條約ヲ結ヒタル所ハ亡産人ノ訴訟ヲ拒絶センカ為ニ亡産ノ事ヲ以テ其口實ト為スヲ得サルヘシト

諸論者ノ定論ニ曰ク前項ノ如クナリト雖トモ亦事件ニ由リテハ亡産人獨リ之ヲ訴訟シ若クハ防禦スルヲ得ヘキモノアリト即チ財産ニ関スルニ非シテ特ニ身體ニ関スル事件是ナリ譬ヘバ離縁訴訟ヲ為シ若クハ之ヲ防クヲ得又不認（デザウキ）児（生児ヲ吾カ子ニ非スト認ムルコト）ノ訴訟ヲ爲シ得ルガ如シ

大審院ノ定議ニ曰ク亡産人ノ名譽ヲ妨害スル如キ處置ヲ為スモノアルトキハ之ヲ官ニ訴ヘテ辨償ヲ為サシムルノ権利ハ常ニ之ヲ施行スルヲ得ヘシ（千八百五十九年二月二十一日ノ決定）

又亡産人自己ノ権利ヲ保護スル為メニセシ條約ハ有効ノモノトス乃チ期満（プレスクリプシヨン）得免ノ如キハ亡産人ノ請求ニ依テ之ヲ暫停スルヲ得ヘシ（マヽ）セ「裁判院千二百弟一号ノ布告及ヒポアチエー」

裁判院千八百二十九年一月二十九日ノ決議

又亡産人未タ亡産ヲ爲サヽル前ニ方テ財産ヲ附與セルニ其財産ヲ受ル者恩義ヲ知ラザルカ爲ニ其財産ヲ奪回スル訴訟ヲ為スノ権利ハ特ニ亡産人ニ屬スルモノニシテ亡産代管人ニ屬スルモノニ非ス蓋シ財産ヲ受ル者ノ忘恩ヲ責問スルト宥免スルトハ獨リ附與人ノ権内ニ在ルモノトス

夫妻財産ヲ分析スルノ訴訟ハ財産ニ関スルモノニシテ身體ニ関セサルカ如キ者ト雖モ亡産

セシ婦人ノ代管人ハ其男夫ニ對シテ訴訟ヲ為スノ專権ヲ有セス立法者則チ道義上ヨリシテ之ヲ禁止セリ拿破倫法典第四百四十六條代管人ハ唯男夫ノ亡産若クハ分産ヲ為スノ場合ニ於テ婦妻ノ諸権利ヲ施行スルヲ得ルノミ同法典第千四百四十六條第二項

第二〇諸債主各自ニ訴訟ヲ為スコトノ停止〇亡産上ノ効験之ヲ正言スレハ即チ失権ノ連接ニ過キサル所ノ効験ハ乃チ亡産人ノ諸債主カ公布宣告後ハ各自ニ負債人ヲ促迫スルノ権利

ヲ施行スルヲ得サルコトナリ

格列諾弗裁判院ノ判決ニ曰ク失権ノ成立スルハ公布ノ宣告ヲ為セシ時ニ起リ之ヲ廣布セシ時ニ始マルニ非ス故ニ其宣告ノ第四百四十二條ニ準シテ廣布セラレサル内ト雖モ宣告後ニ為セシ不動産抑留ハ無効ニ歸スヘシ（商法第四百四十三條第四百四十一條第九百九十一條及ヒ第五百七十一條ヲ參看スヘシ）

公布ヲ為スヘキ宣告ヲ為セシ以往ハ亡産代管人ニ命シテ各債主ノ訴訟ヲ集合擔當セシム凡ソ代管人ハ獨リ亡産人ノ動産及ヒ不動産ノ糶賣ヲ主管スルヲ得蓋シ債主各自ニ之ヲ分離處置スルハ徒ニ費用ヲ加ルノミニシテ亡産人ノ貸額ニ幾部分ヲ消減スルノ外別ニ其効験ナキヲ以テナリ

吾輩ハ第五百七十一條ニ辨明スルノ時ヲ待テ宣告後ニ訴訟ヲ為ス権利ヲ有セサル所ノ無典債主ハ宣告前ニ起シタル訴訟ヲバ保続スルヲ得ベキカヲ研窮スベシ

往年身體ノ禁錮（コンキンパイ）（千八百六十七年四月十五日立法者ハ之ヲ廃止スルノ議ヲ投票セリ）ノ行ハルヽヿト雖ヒ諸債主各自ノ請求ニ依テ亡産人ノ身體ヲ制縛シテ其賊産ヲ賣却スルノ事ハ既ニ之ヲ廃止セリ（商法第五百二十七條第二項及ヒ第五百三十九條第一項ノ論理）蓋シ身體禁錮ノ目的タルヤ負債人ノ支償ヲ逼促スルニ在リ然ルニ亡産人ハ賊産ヲ主管スルノ權利ヲ失フカ故ニ亦支償ヲ為スヲ得ヘカラザルヘシ

然シナカラ債主ノ質ニ由リテハ常規則ノ外ニ

在テ一名ニテ亡産人ニ對スル訴訟ヲ為スヲ得ルモノアリ蓋シ債主ニ對シ特別ノ地位ニ在ルヲ以テ稍々亡産外ニ在ルモノナレハナリ何ソヤ不動産上ニ抵當物及ヒ特權ヲ有スル債主（商法第五百七十一條ノ論理）及ヒ典當物ヲ有スル債主（商法第五百四十八條）ニシテ甲ハ抵當物タリ特權アル所ノ不動産ヲ抑奪シ乙ハ典當物ヲ糴賣スルヲ得ヘシ

最モ亡産人ノ居宅若クハ借地ノ所有主ハ亡産人ノ動産上ニ默許ノ抵當物（ヒヨリ）成立スル特

権ヲ有スト雖モ亡産公布宣告ノ日ヨリ三十日ヲ経サレハ亡産人ノ商業ニ用ユル所ノ動産ヲ糶賣シテ屋税地金ヲ辨償セシムルノ方法ヲ施スヲ得ス蓋シ立法者ハ亡産人ノ財産ノ受続者ニ附與スルニ充分思索ノ時間ヲ以テシ借地ヲ維持シテ旧業ヲ保続スルヲ要スヘキ場合ニ在テハ金ヲ債主ニ辨償シテ至當ノ處置ヲ為スヲ得セシムルヲ欲セシナリ（書式第百二十八條ヲ参看スヘシ）

（註）（一）里温裁判院ノ決議ニ亡産ノ場合ニ於テ明細目録ト賤産預ケ方ノ費用ハ所有主ニ負債ヲ償フ後ニ非サレバ之ヲ動産ヨリ償フヲ得ス

（二）大審院ハ商法第四百四十四條及ヒ拿破倫法典第二千百二條ノ施行ニ依テ決議シ亡日ク賃房主ハ第二千百二條ノ差別ニ就テ生出セル屋税ヲ要求スルノ権利并ニ貸渡約條書ノ破棄ヲ請求スルノ権利ヲ有ス○千八百六十九年三月二十日立法官ニ送致シタル政府ノ法案ハ賃房主ノ権利ヲ減縮スルニ在リキ

負債人ノ敗産ヲ糴賣スヘキ貸主（ロットール）ノ權利ヲ停止スト雖モ敗産ヲ保存スルノ方法ハ行フコトヲ妨ゲス譬ヘバ容藏セシ動産ヲ抑留シ之ヲ回復スルコトノ權利ヲ有スル如キ是レナリ

旦ツ貸房主ノ權利施行ヲ停止スルハ第四百五十條ニ依レハ亡産人ノ商業ニ關スル動産上ニ限レリ故ニ貸房若クハ貸地内ニ亡産人ノ商業上ニ係ラザル動産アルトキハ三十日以内ト雖トモ糴賣セシムルヲ得ヘシ

又所有主直ニ貸房及ヒ貸地ヲ回復スルコトノ

權利ヲ保ツトキハ右ノ停止ヲ命スルヲ得ス蓋シ之ヲ主管スルノ自由ヲ有スレハナリ

吾輩ノ辨明セシ如ク亡産公布ノ宣告後ニ自ラ負債人ニ對シ敗産糴賣ノ訴訟ヲ為スノ權利ヲ有スル債主ト雖モ亡産代管人ニ對スルニ非サレハ之ヲ開始シ若クハ保続スルヲ得ス（商法第四百四十三條第三項）

如何ナル場合ニ於テモ裁判所ハ其所見ヲ以テ亡産人ヲシテ敗産糴賣ニ關係セシムルヲ得ヘシ蓋シ代管人ノ亡産人ノ障害ヲ為スコトアル

トキハ亡産人ノ請求ヲ受理スルヲ要スト且ツ此
関係ノ権理ハ一切裁判所ノ所見ニ委スルヲ以
テ實際上更ニ弊害ヲ起スコトナシ
或ハ謂ヘラク亡産人尋常主管ニ関スル訴訟ハ
裁判ノ許可ヲ要スト雖モ唯々自己ノ所有物ニ
関スル訴訟ハ其許可ヲ要セザルヘシ
此説ハ法律ニ言ハサル所ノ區別ヲ新設スルモ
ノト謂フベシ商法第四百四十三條ニ先タツ所
ノ僉議中ニ指示セル如ク第四百四十三條ノ精
神ニ依リテモ又其全体ニ依リテモ大審院ノ言

ノ如ク同上二項中ニ定メタル規則ニ特別ニ許
セシ亡産人干渉権ハ所有權ト財産主管トノ別
ヲ立ツルコトナク一切亡産人ノ利益ニ就テ之
ヲ施行スルヲ得ヘシ故ニ如何ナル場合ニ在テ
モ裁判所ハ亡産人ノ干渉ヲ許スト之ヲ拒ムト
ノ專權ヲ有セリ
第四百四十四条○第三亡産人ニ對スル諸負債
ノ要求○亡産公布ノ宣告ハ民事商事ヲ論セス總
テ亡産人ノ負債丈償ヲ要求スベキモノトナス
法律ハ決シテ負債ノ種類ヲ分タス

然レトモ亡産ノ篤還ヲ急ニスル為ニ設ケタル要求ハ期約ノ満限ヨリ生スル所ノ者ト一様ノ効驗ヲ生スルモノト為スヘカラズ蓋シ要求ノ意思ハ徒ニ債主ノ貸附ヲ満期ト見做シテ亡産ノ處分并ニ割合ノ分配ニ干渉スルヲ得ルニ在リ

故ニ此不虞ノ要求ハ債主モ亦亡産人ニ負債アリテ満期ニ及ヒタルモ交互ノ扣除清篤ヲ為スノ権利ヲ債主ニ與ヘス此ニ一例ヲ擧ケンニ普里摸士氏亡産ヲ公告セシトキ「セカンヅュス」氏

ハ普里摸士ニ一千「フランク」満期ノ債ヲ有セン然ルニ普里摸士モ亦「セカンヅュス」ニ一箇年期ノ債一千「フランク」ヲ有スベシ然ルトキ「セカンヅュス」ノ貸金ハ普里摸士亡産ノ故ヲ以テ要求スベキモノトナリタルヲ理由トシ扣除清篤ヲ為サントスルモ之ヲ許サス

蓋シ「セカンヅュス」カ亡産人ニ負フ所ハ一千「フランク」ノ金額ナリ然レトモ亡産人ノ「セカンヅュス」ニ負フ所ハ同一ノ金額一「千フランク」ニ非ス唯相當ノ割合ノ金額ヲ負フナリ故ニ現今算

還スヘキ負債一千「フランク」ト金額未定ニシテ要求スヘカラザル割合金即チ拿破倫法典第千二百九十一条ノ意ノ如ク決算スヘキモ要求スヘクモアラザル借金ト流用スルヲ得ス

今此ニ之ヲ反言セン亡産ノ宣告ヲ為セシ「セカンヅュス」ノ亡産人ニ負フ所ノ債ハ満期ニ及ハス却テ亡産人ノ「セカンヅュス」ニ負フ所ノ債ハ要求スヘキ期限ニ及ヒタルモノトス然ルトキニ負債人(セカンヅュスヲ指ス)ハ勿論自己ノ返債期限ノ利ヲ抛棄スルノ権ヲ有スト雖モ亦扣除清算ヲ為スヲ得ス

大審院ノ言ヘルアリ合法ノ扣除清算ハ拿破倫典典千二百九十一條ニ依レバ同時ニ支償スヘク要求スヘキ雙関ノ負債額ニ非レハ之ヲ施スコトヲ得ス若シ此規則ヲ亡産人ノ負債上ニ施行セントスル欲セバ亡産ノ起始ノ時日ヲ確定スヘキ主義ト之ヲ結合セサルベカラス斯ノ如クナルカ故ニ亡産人ノ債主併セテ負債人タルモノ亡産公布ノ際未タ還償ノ期ニ及ハサル負債ハ

満期ノ後其全額ヲ債主(即チ亡産人)ニ辨償セサルヲ得ス此債額ヲ以テ亡産人ノ彼レニ負フ所ノ債額ト扣除清算ヲ為スヲ得ス何ト・ナレハ亡産人ノ債金ハ他ノ負債ト共ニ多少減少シテ辨償スヘキモノタレハナリ(千八百六十年七月九日ノ決定)

要求ハ通常ノ債主ニ施行スルノミナラス抵當物及ヒ特権若クハ典當物ヲ有セシ債主ニモ亦之ヲ施スヲ得ヘシ亡産人ノ貸額ヲ拾集算還スルニ諸債主ノ聚合ヲ要スル者以テ若シ諸負債ノ要求スヘカラサルモノナルニ於テハ聚合シテ處分ヲ為スヲ得ヘカラザルベシ然レトモ此要求ノ為ニ保質人ハ貸金辨償ノ定期内ニ抵當物タル若クハ特権アル不動産ヲ剥奪シ若クハ受寄スル所ノ典物ヲ糶賣セシムルヲ得ルト謂フニ非ス(二)必ス亡産ノ處分ノ結終ニ至ルマテ之ヲ待ツヲ要ス然後ナルドルル質物ヲ有スル債主中ノ賊産ヲ分典スルコトニ裁判ニ由テ負債人若クハコンストリブュシヨン無質ノ債主中云々上ニ同シニ従事スヘキナリ

要求ハ商法第四百四十四條第一項ニ掲示セル

如ク獨リ亡産人ニ對シテ生出ス亡産人ハ別ニ連及人（コプリジュー）ヲ有スルコトアルヘシト雖トモ本人亡産ノ効力ヲ連及人ニ及ホスノ理由ナシ蓋シ連及人ハ自己ノ負債ヲ支償スルノカヲ有スレハナリ故ニ債主ハ條約上ノ期限ニ非サルヨリハ連及人ニ對スル處分ヲ為スヲ得ス

連及人設令亡産人ト連帶セシ場合ニ在ルモ亦前項ノ主義ヲ変スルコトナシ何トナレハ連帶ノ連及人モ返金期限ヲ別異ニスルヲ得レハナリ（拿破倫法典第千二百一條）

亡産人ノ負債保証人アルモノハ債主ヨリ有カノ保証人ニ對シテ期限内ニ返償ヲ要求スルヲ得ス蓋シ亡産上ヨリ生出スル要求ハ唯負債本人ニ對シテ其効カヲ有スルノミ

若シ保証人亡産ヲ為セシトキハ債主負債本人ニ返辨ヲ要求スルノ権ヲ有セス然レトモ負債本人ハ新ニ保証人ヲ定立スルヲ要ス（拿破倫法典第二千二十條第一項）

若シ亡産ヲ為セシ保証人ハ債主特別ニ撰定セシモノナルトキハ負債本人ハ新ニ保証人ヲ定

立スルニ及ハス何トナレハ債主ハ自ラ保証人ヲ撰定セシトキ本人ヨリ起ル所ノ災害ハ其損失ヲ顧ミスト黙識セリト見做スヘシ(拿破倫法典第二千二十條第二項)

吾輩ハ連及人數名アルトキハ亡産ヲ為サヾル者ハ最初條約上ノ期限ヲ利スルヲ得ルヲ見知セリ然レドモ「ビエー、アー、オルドル」(手形ノ名、差立人自ラ其金高ヲ償フヲ約定スルモノナリ為替手形ト異ナリ)若クハ為替券書(レットル、ド、シャンジュ倍ニ謂フ所ノ為替手形ナリ)ヲ用ヒシ契約ハ特別ノ規則ヲ設立セシメタリ吾輩將ニ之ヲ説明セントス

「ビエー、アー、オルドル」ノ署名人(スクリプトール)為替券書(アクセプトール)ノ任當人為替券書ノ金額ヲ償フヘキヲ約セシモノ若クハ其差立人(チロール)(名子當人)未タ為替券書ノ任當ヲ約セサルトキハ(ノ亡産ヲ為セシ場合ニ在テハ券書裏書人(アンドーソール)(手形ニ裏書ヲナシテ現金ヲ代リニ之ヲ人ニ附與セシモノ)タル連及人ハ券書交換期限ノ支償ヲ確証スル為ニ保証物ヲ券書所有主ニ附與セザルヘカラス最モ即時現金ヲ償フヲ以テ可トス(一)然レドモ負債本人ノ亡産セシトキニ非サルヨリハ券書所有主ハ連及人ニ保証若クハ即償ヲ要求スルヲ得サルニ注意スヘシ乃チ

ビエー、ア、オルドルナレハ署名人為替券書ナレハ任當人(若シ名當人之ヲ引請タルトキハ)(二)若クハ差立人(名當人亦タ之ヲ引請ケサルトキハ)亡産ヲ為セシトキニ限ルヘシ(三)

註(一)大審院ノ決議ニ曰ク券書署名人ト券書所有主トノ間ニ結ヒシ條約ノ施行ヲ保証スル為ニ券書ニ裏書ヲ為シテ其責ニ任スル者トナリタルモノハ署名人亡産ヲ為セシトキ商法第四百四十四條ニ他ノ責ニ任スル者ニ許ス所ノ期限ヲ利スルヲ得スト然レトモ吾輩ハ連及人一名ノ亡産ハ他ノ連及人ニ對シテ更ニ即功ヲ有セサルヲ見タリキ

(二)蓋シ名當人ハ其任當ヲ承諾セシニ由テ為替券書ノ直接本主ノ負債人トナリテ裏書人及ヒ差立人ハ唯其保証人トナレハナリ

(三)蓋シ名當人任當ヲ為サヾル間ハ差立人本主負債人タレハナリ

是故ニ若シ裏書人ノ中ニ亡産ヲ為セシモノアルトモ券書所有主ハビエー、ア、オルドルニ就テ定期内ニ署名人ニ保証若クハ還償ヲ請求スル

ノ權利ヲ有セス又為替券書ニ就テハ任當人若クハ差立人ニ對シテ同上ノ權利ヲ有セザルヘシ

又為替券書ニ係ルトキ若シ名當人之ヲ任當シタレハ差當人亡産ヲ為ストモ券書所有主ハ任當人及ヒ裏書人ニ對シテ保証ヲ請求スルノ權利ヲ有セス

然レトモ前項ノ成規ヲ駁擊セル論者アリテ曰ク裏書人中ニ亡産ヲ為セシモノアルトキハ券書所有主ハ亡産人ノ後ニ連署セシ裏書人各名ニ對シ保証ヲ請求スルヲ得ヘシ何トナレハ彼等ハ裏書ノ次序亡産人ノ後ニアルヲ以テ皆亡産人ノ署名ヲ除棄シテ自ラ保証人トナリタル理ナリ又此同一ノ理ニ依レハ差立人亡産ヲ為セシトキ設令券書ハ既ニ名當人之ニ任當シタルニセヨ券書所有主ハ裏書人各名ニ對シテ保証ヲ請求スルヲ得ヘシ何トナレハ彼等ハ皆為替券書ヲ附與シテ自ラ其保証人ト為リタレバナリト

看ヨ論者法律ノ趣旨ヲ確認決定セシ結局ハ左

ノ如シ真ニ商事ノ條約ヲ完全スヘキ者(即チビエー、アー、オルドル)ノ署名人為替券書ノ任當人(若シ名當人未ダ之ヲ任當セサルトキハ差立人)亡産ヲ為セシトキハ定期ニ券書ノ支償ヲ為ス能ハザルハ言ヲ待タス故ヲ以テ即時ニ他ノ連及人ニ保証ヲ請求セサルヘカラス又之ニ反シテ券書ヲ支償スヘキノ本主支償スヘキ資力ヲ有シ唯責任者中ノ一名亡産ヲ為セシトキハ此保証ヲ請求スルノ要點ヲ見ス若シ亡産ヲ為セシ裏書人ヨリ後ノ裏書人等ニ對シ若クハ差立人亡産ヲ為セシトキハ衆名ノ裏書人ニ對シ保証ヲ入ルヽヲ要ストセハ商事上ニ不幸ナル困難ヲ生出シ連及人ハ亡産ヲ為スニ至ラストモ大ヒナル妨碍ヲ受クルニ疑ヒナシ故ニ立法者ハ理論ノ極密ナル結果ニ從ハンヨリハ寧ロ商事ノ昌盛上ニ至要ナル主義ヲ許諾セシナリ

若シ名當人券書ヲ承諾スルヨリ以前ニ亡産ヲ為セシトキハ券書所有主ハ任當人ナキノ「プロテー」券書ヲ拂フモノナキヲ保証スル一書ヲ為セシ後チ其保証人等ニ對シテ保証若クハ即償ヲ請求スルヲ得ヘシ何

トナレハ名當人亡産ヲ為セシ以往ハ券書ノ任當ヲナサヾルハ言ヲ待タス設令亡産人之ヲ任當スルモ効ナキヲ以テ之ヲ任當セザルト同一ナリ

第四百四十五條○利息増殖ノ停止○亡産ヲ公布スヘキ宣告ヲ為セシ以往ハ亡産人ニ對スル負債利息ノ増殖ヲ停止スヘシ○此宣告後ハ亡産人支償ヲ為ス能ハサルニ止マラス債主等ノ分配金ヲ得ルニ至ルマデハ許多ノ日數ヲ經サルヘカラス故ニ若シ利息接次ニ増殖スル件ハ亡産人ノ既ニ元債ヲ償フモ猶ホ不足ナル貸金額ヲ巨額ノ債ノ利息ノ為ニ一層減消シテ大ニ小額債主等ノ損害ヲ釀成スヘシ蓋シ亡産人ハ特権ヲ有スル債主ヲ除クノ外ハ債額ノ大小ニ係ラス其割合ヲ以テ返金ヲ分配セサルヘカラス

利息増殖ノ停止ハ諸債主ニ止マリ亡産人及ヒ其連及人ノ貸額ノ利息ハ接次ニ増殖スヘシ然レトモ亡産人ハ後日復権ヲ為サントスルトキハ此利息ヲ諸債主ニ償ハザルヘカラス

利息ヲ生出スル所ノ負債若シ特権典當若クハ抵當物ヲ以テ保証セラレタルトキハ亡産公布ノ宣告ハ其債主ニ對シ利息ノ増殖ヲ停止スルコトナシ而シテ此種類ノ券書ヲ有スル者ハ利息ヲ得ルノ権利ヲ保存スベシ○然レトモ母子金既ニ特権典當又ハ抵當シタル賤産ノ價額ヲ超ユルトキハ利息ヲ停止スベシ

先取ノ権利ヲ保有セル諸債主ニ償フベキ資本金ハ其母子ヲ償フニ充分ナルトキハ更ニ困難ナシト雖モ若シ其金額不足ナルトキハ乃チ困

ナル問題ヲ生スヘシ

譬ヘハ此ニ一ノ特権若クハ抵當物ヲ有スル債主アリ其原金一萬「フランク」ニシテ亡産公布ノ宣告後ニ増殖セシ利金一千「フランク」アリトス然ルニ特権若クハ抵當ニ附セシ不動産ヲ賣却シテ代價七千五百「フランク」ヲ得タリ之ヲ分配スルノ方法如何ナルヤ拿破倫法典第千二百五十四條ニ依レハ特権若クハ抵當ヲ有スル債主ハ此金額ニ就テ先ツ利金一千「フランク」ヲ引去リ且ツ母金ノ一部分ヲ償還セシムルヲ得ヘシ但

シ他ノ部分（三千五百フランク）ハ無典債主（壽ト）各
貸金高ノ割合ヲ以テ之ヲ分配スルモノトス
然レトモ此分配ノ方法ヲ以テスルトキハ畢竟
無典債主ニ法律除免スル所ノ利金ヲ負擔セシ
ムルノ理ナリ故ニ拿破倫法典第千二百五十四
條ニ掲示セル分配ノ方法ハ負債人ノ亡産ノ場
合ニ在テハ決シテ之ヲ施行スルヲ得ス現ニ商
法第四百四十五條ハ之ニ反對セリ（千八百六十
一年八月三日里温裁判院決議ノ首意ナリ）

○吾輩ハ既ニ亡産公布ノ宣告後ニ関スル亡産ノ効力如何ナルヲ研究シタルヲ以テ自今復タ宣告前ニ関スル亡産ノ効力ヲ研窮セサルヘカラス吾輩既ニ云ヘル如ク裁判所ハ本日(千八百六十九年一月二日)検定セシ所ノ支償謝絶即チ亡産ヲ昔日(譬ヘハ千八百六十八年一月二日)ヨリ成立セシト云フヲ得ヘシ故ニ吾輩カ自今論定スベキハ千八百六十八年一月二日及ヒ該日前十日ヨリ千八百六十九年一月二日ニ至ルマデノ間ニ為セシ亡産ノ條件ノ運用ニ在リ

支償謝絶ヲ為スノ前後ニ於テ一二ノ債主ニ特利ヲ附與シ若クハ諸債主ニ屬スヘキ財産ヲ減少スヘキ處置ヲ為スコトアルヘシ是故ニ亡産公布宣告ニ先ツ所ノ諸事項上ニ特規ヲ立テザルヲ得ス

千八百三十八年ノ法律ハ現今商法ノ新成規ヲ成スモノニシテ編輯ノ際論者右諸事項ニ就テ各種ノ方法ヲ建議セシカ遂ニ左ノ方法ヲ採用セリ

諸處分中ニ唯支償謝絶後ニ在ルノ故ヲ以テ若

ク八數日前即チ十日前ニ在ルノ故ヲ以テ無効ニ歸スヘキ種類アリ即チ商法第四百四十六條ニ開列セル處分是レナリ其他ノ處分ハ支償謝絶後ニ在リテ負債人ト取引ヲ為セシ者之ヲ了知セシ場合ニ限リ裁判所之ヲ破毀スルヲ得ヘシ商法第四百四十七條參看

註或ル裁判院ノ決議ニ曰ク亡産人ハ第四百四十四條及ヒ第四百四十七條ノ許セシ無効ヲ利用スルコトヲ得ス何トナレハ該二條ハ專ラ諸債主ノ利益ノ為ニ無効ノ法ヲ設立セシ

モノナレハナリ○千八百六十一年七月十七日大審院ノ決議ニ曰ク亡産管財人ハ特リ第四百四十六條ニ適スル處分ノ無効ヲ請求スルノ權利ヲ有セリ

第四百四十六條○斯ク論定セシ以往ハ裁判所ノ認定セシ支償謝絶ノ時日後若クハ時日前十日内ニ負債人ノ為セシ條約ハ他人ニ對シ無効ノモノトス此條約ハ則チ左ノ如シ

第一○價金ヲ受ケスシテ動産若クハ不動産ヲ讓與スルノ條約○故ニ惠與ノ性質ヲ有スル諸條

約直接若クハ間接ノ譲與及ヒ有代ト詐稱シテ為セシ譲與等ハ總テ無効タルベシ○自己ノ債主ヲモ満足セシムルコト能ハサル負債人ニ恵與ノ處分ヲ為スヲ許サヾルハ固ヨリ理ノ當然ナリ

註「モントペリエー」裁判院ハ亡産人支償謝絶後ニ施行セシ動産譲與ハ亡産公告後若クハ公告前十日内ニ在ルモ其効ヲ有シテ公簿ニ登記セラルベシト裁決セシコトアリ

褒賞ニ係ル譲與タリトモ亦同ク無効タルベシ

論者或ハ謂フアラン些少ノ譲與且ツ譲與ノ如クニシテ其實ハ人情ニ基キ褒賞ヲ為スニ過キサルモノハ其効ヲ存スヘシト

亡産ノ際妻女ニ付與スル所ノ婚齎品ニ就テハ諸論者謂ラク夫婦ノ誠心ヨリ出ルトキハ譲與ノ効ヲ有スベシト何トナレハ婚齎品ナルモノ無料ノ譲與ノ如シト雖モ其實ハ妻女之ヲ得ベキノ権利アルヲ以テ有料ノ譲與ト見做スベシ則チ大審院モ亦此意ヲ認可セリ

他ノ一論者ノ説ニ曰ク婚齎品ノ物タルハ稍々

有料讓與ノ性質ヲ有スト雖モ亦無料讓與タルヲ免カレズ而シテ商法第四百四十六條ノ成規ハ全ク上項ノ説ヲ破却セリト

第二〇未タ期限ニ至ラサル負債ノ償還〇未タ期限ニ至ラサル負債ヲ償還スルハ甲ノ債主ニ利アリテ乙ノ債主ニ損害アルヘシ蓋シ既ニ要求ノ權利ヲ有スル債主ニ辨償スルコト能ハサルニ未タ要求ノ權利ヲ有セサル債主ニ先ツ償還ヲ為スハ其理殆ント解スヘカラス故ニ此ノ如キ償還ハ無効ニ歸セサルヲ得ス

負債ノ種類如何ヲ論セス民事若クハ商事ニ関シ未タ期限ニ至ラサレハ(一)支償謝絶後或ハ支償謝絶前十日内ニ於テセシ亡産人ノ償還ハ一切債主ニ對シテ無効ノモノトス

註千八百五十九年七月二十六日疴連安裁判院ノ決議ニ曰ク何月何日ニ償フヘキト謂ヘル証書ニ對シ未タ期限ニ至ラザル内ニ償還ヲ為セシトキハ第四百四十六條ニ照シ期限未満ノ負債同一般ニ見做スヘシ

又償還ノ方法如何ヲ問ハス貨幣ヲ以テスルモ

トランスポール、賣渡支償ヲ以テスルモ差別ナシ尚ホ法律ハ扣算其他ノ償方ヲモ追加セリ

トランスポールヲ以テ償却スト謂ヘル成語ハ貸金轉附ノ一種ニシテ甲ガ乙ニ要求スヘキ貸金ヲ自己ノ債主タル丙ニ轉移スルモノヲ謂フ賣渡支償ト謂ヘルハ債主ニ動産若クハ不動産ヲ交付シテ負債ヲ償還スルヲ謂フ

註千八百四十八年五月三十日大審院ノ決議ニ曰ク負債ノ原種本ト貨幣ナルトキハ他物ヲ以テ辨償スルハ總テ無効ニ歸スヘシ但シ

權リニ器物ヲ債主ニ抵當スルモ之ヲ賣却シテ債主自ラ償フノ權利ヲ債主ニ付與スルモ其差別アルコトナシ何レノ場合ニ在ルトモ負債人ハ貨幣ヲ以テ償却ヲ為セシモノニ非ス

扣算ナル成語ハ法律上ノ扣算ヲ指示セス何トナレハ法律上ノ扣算ハ雙方ノ負債同一ニ要求スヘキ時期ニ在ルニ非レハ之ヲ為スヲ得ス然ルニ此ニ在テハ亡産人ノ債期ハ未タ満期ニ至ラザルモノヲ擬定セリ商法編輯ノ際此點ニ注

意シ動議ヲ起コセシモノアリ論者之ニ答ヘテ曰ク此場合ニ於テ扣算ト謂ヘルハ醇粹ナル扣算即チ法律ニ依テ要求セル扣算ニ関係セス雙方ノ承諾協同ヨリ成立セルモノヲ謂フナリ「上」註本項陳列スル所ノ論旨ニ原テ「メツ」ノ裁判院ハ斯ク判決セシコトアリ即チ亡産人ハ支償謝絶期限ニ當リ辨償スヘキ期ニ至リシ自己ノ負債ヲ以テ我カ負債人カ同時ニ満期セル負債ヲ支償謝絶後ニ至テ正實ニ辨償スルトキハ扣算ヲ為スヲ得ヘシ（千八百四十五年七月十六日ノ決議）又此決議中ニ謂ヘラク合法ノ扣筭ハ詐偽ヲ容ルヽノ愛ナシ何トナレハ談取引ハ債主及ヒ負債人ノ旨意如何ニ関スルナク單ニ法力ヲ以テ之ヲ施行セシムレハナリ

無質（ペーグリール）ニテ為替券書ヲ保任シタル者若シ未タ差立人ヨリ適價ヲ領受セスシテ券書ノ金額ヲ賠償セシトキハ差立人ノ臨時債主トナルヘシ因テ亡産人（即チ差立人）ハ之ヲ辨償スル為ニ為替券書ノ期限ニ至ラサル内ニシテ支償謝絶前十

日内ニ適償ヲ券書保任(アヒヒキ)人ニ附與スト雖モ此辨償ハ期限未滿ナルニ當リ諸債主ニ對シテ無効ニ歸スヘシ是レ千八百五十九年五月三十日大審院ノ決議セシ所ナリ

論者或ハ曰ハン券書主ハ差立人ノ真正ノ債主ナリ故ニ諸債主カ不正ニ拂ハレタル金額ヲ賠償セシムル為ニ要求ヲ為スハ券書主ニ對シテ之ヲ為スベク決シテ名當人ニ對シテ之ヲ為スヘキノ理ナシト是レ無用ノ贅言タルニ過キス何トナレハ名當人一旦券書ヲ保任シタル以往

ハ自ラ現今ノ券書主ニ對シテ其賠償ノ責ニ任セサルヘカラス蓋シ此券書ヲ賣テ自己ノ負債ヲ償却シタレハナリ亡産人ノ諸債主ハ券書主ニ對シテ何モ要求スルノ権理ナシ適價(ブウヒヤウ)ノ還却ハ唯名當人ニ對シテノミ之ヲ請求スルヲ得ヘシ蓋シ初メ此適價ヲ名當人ニ交付セシハ吾輩前項ニ陳述セシ如ク臨時負債ニシテ未タ期限ニ至ラザルモノヲ償却セシナリ

第三〇貨幣若クハ通商券書ヲ用ヒザリシ滿期負債ノ支償〇設令支償セシ負債滿期ノモノト

雖氏貨幣又ハ通商券書（此券書ハ法律ニ於テ商事上ノ通貨ト見做セリ）ヲ以テセサルトキハ無効ニ歸スヘシ(一)譬ヘハ債主若シ動産寶貨金銀細工等ヲ貸金ノ代リニ領受スルカ如キ其支償無効ニ歸ス法律ハ斯ノ如キ非常ナル辨償方ヲ承諾セシ債主ハ豫メ負債人ノ窮迫ナル現況ヲ曉リテ他ノ債主ノ不利ヲ顧ミス專ラ自己ノ便宜ヲ企望セシモノト推測セリ

註(一)里温裁判院ノ説ニ依レハ亡産前十日内ニ亡産人ノ通商券書ヲ以テセシ支償ノ効驗ヲ有スルハ直接ニ債主ニ交付セシトキニ限ル若シ債主ノ為メ裏書ヲ為スノミニテ一旦他人ニ之ヲ支償シ或ル條約ヲ結了シタル後ニテ債主ノ手ニ歸スルモノヽ如キハ貨幣同一ノ効驗ヲ有セス

或ル數所ノ裁判院ノ決議ニ曰クワラント（商人ノ商税ノ交納又ハ賣買條約結終迄商品ヲ商品庫ニ寄托シ其代價ヲ登記セシ證書ヲ得之レヲワラントヽ云フ）ハ商品ト分離シ之ヲ用フルトキハ商事上ノ券書同一ノ効ヲ有スヘシ

同裁判院ノ説ニ一般ノ倉庫ニ寄托セシ商品ノ

収領書（セビセル）ハ「ワラント」ニ異ナリ而シテ負債人亡産後ニ収領書ヲ以テ満期ノ債額ヲ支償スト雖モ之ヲ領受シタル債主ハ他ノ諸債主ニ之ヲ引渡サヾルヲ得ス何トナレハ該裁判院ハ此償ヒ方ヲ商品ノ支償ト認ムレハナリ

「グレノーブル」裁判院ノ決議ニ亡産人ノ支償ニ用ヒタル収領書ハ「ワラント」ノ性質ヲ兼ヌルトキハ支償ノ効力ヲ有セリ（千八百六十二年十二月十八日ノ決議）

談院ノ説ニ曰ク立法者ハ裏書ノ方法ニ依テ収領書及ヒ「ワラント」ノ譲與ヲ為スコトヲ許可シテ全ク此二ツノモノヲ以テ商事上ノ券書ト見做セシナリト

然レトモ大審院ハ上項ノ「ワラント」及ヒ収領書ヲ以テ商事上ノ券書ト見做スノ説ヲ抗撃シテ真正ノ主義ヲ陳述セリ其決議ノ文言左ノ如シ

「商法第四百四十六條第三項ハ亡産前十日内ニ貨幣若クハ商事上ノ券書ヲ除クノ外他ノ品物ヲ以テ満期ノ負債ヲ支償スルモ無効ニ帰スト為スノ故ヲ以テ○而ノ此律文ノ精神ハ商事上ノ券書ナルモノハ券主カ裏書ヲ為シテ他人ニ對

スル貸金ヲ新券主ニ交付シ貨幣同一ノ効ヲ有スルモノニ限レリ譬ヘハ裏書ヲ為セシ「ビヨ」ヽアヽオルドル」及ヒ適償ヲ以テ保證サレタル為替券書ノ如キ者ニ限ルカ故ヲ以テ○假令千八百五十八年五月廿八日ノ法律ニ依テ商事上ノ券書ニ準セラレシト認ムルトモ尋常倉庫ヨリ交收セシ收領書及ヒ「ワラント」ハ若シ此亡産前十日内ニ商品寄托人ガ諸債主中ノ一人満期負債ヲ償フガ為メニ「ワラント」及ヒ收領書ニ各箇或ハ一箇ニ裏書ヲ為セシトキハ亦該律ノ規則ニ

符合セサルカ故ヲ以テ蓋シ然ルトキハ他人ノ手ニ有スル貸金ヲ交付シタルニ非ス何トナレハ尋常倉庫ハ負債人ニ非スシテ徒ニ寄托セラレタル商品ヲ看守セルノ任ヲ有スレハナリ且ツ一方ニ在テハ寄托人獨リ最初裏書ノ利得者ノ負債人タルノ故ヲ以テ○斯ノ如キ取引ガ貨幣收領書「ワラント」ニ同ク施行セラルヽトキハ第四百四十六條ニ於テ無効ト為サレタル商品ノ文償及ヒ典質物ヲ成立スルノ故ヲ以テ云々」

註「レンヌ」ノ裁判院ハ千八百六十六年五月七

日ノ決議ニ曰ク商貨ヲ商品庫ニ寄托セシ所有主ノ債主ノ為ニナセシワラントノ裏書ハ尋常典物ノ性質ヲ成セリ故ヲ以テ若シ負債人支償謝絶後又ハ謝絶前十日内ニ之ヲ承諾セシトハ無効ニ帰スベシ

第四〇負債人ノ財産ニ関スル契約上若クハ裁判上ノ抵當物權及ヒアンチクレーズ（貸金ヲ償フ為ニ負債人ノ不動産ヨリ生スル利益ヲ債主ニ有スル權）若クハ典物從前負債ノ為ニ後日定メラレルモノ〇故ニ抵當物權アンチクレーズ及ヒ典物ノ權利ヲ無効ト為スニハ

此等ノ先得ノ權利ヲ亡産中若クハ亡産前十日内ニ承諾セシコトヽ初メ債主カ更ニ保證ヲ要セサリシ所ノ負債ニ就テ承諾セシコトヽヲ要ス〇債主初メ資金ヲ貸給セシトキハ抵當物及ヒ保證人ヲ要セザルニ後チ其債ニ就テ望外ノ質物ヲ得タルトキハ論者ハ之ヲ推測シテ曰ハン此遲期ノ條約ハ殊ニ他ノ債主ニ對シ妨碍アル約條ハ債主ニ於テ豫メ負債人ノ不融通ノ現況ヲ知リ而シテ他ノ債主ヨリモ自己ノ利益ヲ大ニセントノ目的ニ就テ為セシモノナリ然ル

ニ該債主モ他ノ諸債主ト異ナルコトナシ何ト
ナレハ初メ條約ヲ為セシトキ債主亡産人ノ尋
常ノ責任ニ就テ満足セシ所以ナリト
註大審院ノ決議ニ依レハ支償謝絶ノ時日前十
日内ニ承諾セシ貸金交付(トランスポルト ドゥ ラルジャン)ト雖モ其交付ヲ受
ケタル者同時ニ現金ヲ彼ノ譲渡ヲ為セシ商
人ニ貸給スルトキハ右ノ貸金交付ハ有効ノ
者トス
又談院ノ説ニ曰ク負債人一箇ノ條約若クハ
二箇ノ條約並ニ支償謝絶ニ先ツ十日以前ニ

在ルモノヲ以テ若干ノ金ヲ借リテ其抵當ト
シテ他ノ貸金證書ヲ債主ニ附與セシ時ハ設
令債主ガ負債人支償謝絶後及ヒ謝絶前十日
内ニ至ルマデ此事ヲ公告セザリシトモ商法
第四百四十六條ニ依テ處分スルヲ得ス然レ
トモ當初債主ニ抵當ヲ附與スルコトナク金
ヲ借リタル負債人カ後日ニ至リ即チ支償謝
絶後若クハ謝絶前十日内ニ始テ貸金譲與ヲ
ヲ為セシトキハ此場合ニ在テハ勿論謝絶前
十日ヨリ以前ニ債主之ヲ公告スルニ由シナ

シ抵當ノ交付ハ衆庶ニ對シ無効ニ歸スヘシ
法律ニ謂フ所ハ契約上ノ抵當物ノ丁及ヒ典當物ヨリ生出スル先得權ノ原由ニ關スルノミ故ニ法律ハ特權及ヒ法律上ノ抵當物ニ之ヲ施スヘカラス
是故ニパルトシュス氏カ著書ノ千八百三十五号若シ商人支償謝絶ノ後十日内ニ婦妻ヲ迎ヘタルトキハ婦妻ハ財産上ニ就テ合法ノ特權ヲ有セスト断言セシハ甚タ不條理ト云フベシ千八百四十八年十一月七日ノ訴訟局決議ヲ參看スベシ
然レトモ若シ婦妻男夫ノ許可ヲ得男夫ノ債主ニ對シテ合法抵當物ノ條約ヲ為シ婦妻ノ男夫ト財産ヲ分析セシ後チ他ノ債主等ノ損害ヲ顧ミス合法抵當物ヲ償ハシムル場合ニ在テハ初メ其條約ヲ為セシトキ婦妻及ヒ債主タル者既ニ男夫ノ支償謝絶ヲ了知シタルニ其目的タルヤ他ノ債主ノ損害ヲ顧ミス一債主ノ利ヲ得セシムルニ在ルトキハ此合法抵當物ノ無効ヲ公告スルヲ得ヘシ但シ商法第四百四十六條ニ依

レ抵當ノ交付ハ衆庶ニ對シ無効ニ歸スヘシ」
法律ニ謂フ所ハ契約上ノ抵當物ノ丁及ヒ典當
物ヨリ生出スル先得權ノ原由ニ関スルノミ故
ニ法律ハ特權及ヒ法律上ノ抵當物ニ之ヲ施ス
ヘカラス
是故ニパルトレュス氏カ著書ノ千八百三十五
号若シ商人支償謝絶ノ後十日内ニ婦妻ヲ迎ヘ
タルトキハ婦妻ハ財産上ニ就テ合法ノ特權ヲ
有セスト断言セシハ甚タ不條理ト云フベシ千
八百四十八年十一月七日ノ訴訟局決議ヲ參看
スベシ
然レトモ若シ婦妻男夫ノ許可ヲ得男夫ノ債主
ニ對シテ合法抵當物ノ條約ヲ為シ婦妻ノ男夫
ト財産ヲ分析セシ後チ他ノ債主等ノ損害ヲ顧
ミス合法抵當物ヲ償ハシムル場合ニ在テハ初
メ其條約ヲ為セシトキ婦妻及ヒ債主タル者既
ニ男夫ノ支償謝絶ヲ了知シタルニ其目的タル
ヤ他ノ債主ノ損害ヲ顧ミス一債主ノ利ヲ得セ
シムルニ在ルトキハ此合法抵當物ノ無効ヲ公
告スルヲ得ヘシ但シ商法第四百四十六條ニ依

テ然ルニアラス第四百四十七條ニ依テ然ルナリ

又負債人ノ委付セシ抵當物典當物ハ緊重ナル契約ト同時ニ之ヲ承諾セシトキハ其効ヲ有スヘシ何トナレハ第四百四十六條ハ負債ヲ為セシ時日ヨリ以後ニ承諾セシ保證物ノミヲ破毀セシメタリ前項ノ場合ニ在テハ無効ヲ發言スヘキ理由ヲ見ス債主契約ヲ為セシトキ先得ノ理由ヲ保存セシモノナルガ為ニ資金ヲ貸付セシモノニテ賊産合部（諸債主ニ分配スヘキ賊産ノ金部ヲ云フ）ヲ減

シテ特別ニ一債主ニ付與セシ無代ノ利益ト云フヲ得サルナリ

註大審院ノ判決ニ曰ク若シ抵當物從前ニ契約セシ負債ニ就テ承諾セシモノニ非スシテ負債ト同時ニ承諾セシモノハ支償謝絶後ニ在ルトモ債主亡産ヲ防ク為メニ正心ヲ以テセシ貸金ノ保證物トナセシモノナレハ此抵當物ハ有効ノモノトナス（訴訟局千八百五十四年三月八日ノ決議）

吾輩ノ陳列セシ無効ハ法律上ノ推測ニ依テ之

ヲ宣告スルモノナリ故ニ之ヲ告訴スル者ハ更ニ其證據ヲ指示スルニ及バザルノミナラス告訴ニ反スル證據ハ判事一切之ヲ受理セス（拿破倫法典第千三百五十二條）

第四百四十七條○吾輩ハ是レヨリ契約ノ破毀要求者ニ於テ負債人ト契約セシ者ノ負債人支償謝絶ヲ了知セシコトヲ證明スルノ故ヲ以テ裁判所ニ於テ破毀シ得ル所ノ契約ヲ見ントス抑吾輩ハ第四百四十六條ハ專ラ償還期限ニ達セサル負債ノ支償ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ之ヲ破毀シ而シテ期限ニ達セシ負債ノ支償タリトモ貨幣若クハ通商券書ヲ以テスルニ非レハ同ク之ヲ破毀スルコトヲ見タリ故ニ立法者ハ默然滿期負債ヲ貨幣若クハ通商券書ヲ以テ支償セシモノハ之ヲ許可セシコト明亮ナリ然レトモ裁判所ハ斯ノ如キ支償タリト雖トモ之ヲ受ケタル債主負債人ノ支償謝絶ヲ了知セシコト判然ナルトキハ同ク之ヲ破毀スルヲ得ヘシ是レ則チ第四百四十七條ノ凡テ他ノ支償ト云ヘル語ノ指示スル所ナリ

凡テ民事若クハ商事上ノ料價ヲ以テセシ事件及ヒ契約モ亦負債人ト談判ヲ為セシ者其支償謝絶ヲ了知セシトキハ之ヲ破毀スルヲ得ヘシ然レトモ設令此ノ了知セシコトヲ證明セシトキタリトモ裁判所ハ必スシモ破毀ヲ公告スルヲ要スト為スニ非ス則チ第四百四十七條ハ得ヘシノ語ヲ加ヘタリ該律僉議ノ際ニ論者ハ事實ノ鑒定人トル判事ニ廣大ナル自由ヲ付與センコトヲ欲シ而シテ無効ヲ公告スルヲ必要トスヘカラサルノ理ヲ了示セリ

註判事ノ專斷權（プレーガアートニスプレーヲ）專斷權トハ或ル場合ニ在テ判事自己ノ專斷ヲ以テ判決スルノ特權ヲ云フ

ハ亡産人ト契約セシ者ノ支償謝絶ヲ了知セシ以上ハ之ヲ施行スルヲ得而シテ惡心ヲ有セシ場合ニ在テハ法律ハ專斷權ノ界限ヲ定示セス千八百五十年七月三十日及ヒ千八百五十六年十二月三十日訴訟局ノ決議及ヒ千八百五十五年十一月九一日「コルマール」裁判院ノ決議又一ニハ支償謝絶ト亡産公告トノ間ニ於ケル償却ハ設令債主支償謝絶ヲ了知セシト雖トモ正心ヲ以テ之ヲ領取

シ且ツ滿期ノ負債ニ於ケルモノナレハ其効ヲ有ストセリ(千八百四十四年二月十二日及ヒ千八百五十七年一月二十日訴訟局ノ決議及ヒ千八百六十年二月四日里温裁判院ノ決議)

且ツ第四百四十七條ハ支償謝絶後ノ事件ニ就テ謂フノミニシテ支償謝絶前十日内ノ事件ヲ謂フニ非ラサリシコトヲ注目セヨ蓋シ一般此十日内ニ為セシ料價ヲ以テセシ事件ハ乃チ拿破倫法典第千百六十七條中ニ破毀スヘキ事件ニ就テ定メタル主義ニ屬スルモノナリ

是故ニ一般ニ支償謝絶前十日内ニ為セシ料價ヲ以テセシ事件ハ負債人詐偽ノ項アリテ其對手モ亦詐偽ノ項ニ関係セシトキニ非サルヨリハ之ヲ破毀スルヲ得ス何トナレハ破毀スヘキ事件ニ係ル所ノ普通法ノ規則ハ即チ左ノ如シ

領受セシ所ノ有効ノ特權及ヒ抵當ハ(支償謝絶前タリトモ又ハ後タリトモ)(一)亡産ノ支償ヲ公告スル日マテハ之ヲ登記スルヲ得ヘシ然レトモ此公告ヲ為セシ後ハ(二)法律ニ於テ各債主ノ

位置ハ（吾輩既ニ之ヲ言シ如ク）確定シテ復タ變更スヘカラス故ニ有効ノ方法ニ就テ領受セシ抵當物ト雖モ公告後ニ為セシ登記ハ全ク無効ニ歸スヘシ（三）

註（一）吾輩ハ設令支償謝絶後若クハ謝絶前ニ承諾セラレシ抵當物タリトモ緊重ナル契約ト同時ニ之ヲ為セシトキハ其効ヲ存スルヲ見タリキ

（二）「アミアン」裁判院ノ説ニ依レハ公告ハ日ヲ記シ時ヲ記サヽルヲ以テ亡産公布ノ宣告日ニ為セシ登記ハ無効ノモノタリ（千八百五十五年十二月二十六日ノ決議）

（三）有効ノ方法ニ就テ領受セシ抵當權及ヒ特權ヲ亡産公布ノ宣告日内ヲ限リ許可スル所ノ帯四百四十八條ハ單ニ原債ニ就テ施行スヘキ律ニシテ從前登記セシ諸債ノ利子ニ関スルモノニ非ス○故ニ抵當權ヲ有スル債主ハ亡産公告後帯一ノ登記ニ漏泄セシ債利ヲ登記スルヲ得ヘシ千八百五十年二月二十日訴訟局ノ決議○又或ル判決ニ曰ク亡産公告ハ

抵當權ヲ有スル債主ヲシテ十年以ニ從前ノ登記ヲ褸重スヘキ責メヲ免セシメス則チ民事并商事ニ関スル法律中ニ決シテ此除免ヲ附與セシコトナシ

千八百二十九年十二月十五日大審院ノ判決及ヒ千八百四十一年八月十九日巴里裁判院ノ決議

千八百五十五年三月二十三日ノ法律第八條ニ依テ後見人解任後若クハ夫婦離婚後一年内ニ為スヘキ登記ハ支償謝絶後若クハ謝絶前十日内ト雖ヒ之ヲ為スヲ得ヘシ千八百六十二年コルマール裁判院ノ決議

○或ル著書ニ曰ク此登記ハ亡産公告ノ判決後タリトモ其効ヲ存スルヲ得ヘシト

支償謝絶後若クハ謝絶前十日内ニ為セシ登記ニ就テ裁判官ハ抵當物若クハ特權ノ契約日ト登記日トノ間ニ十五日ヲ経シモノハ其無効ヲ公告スルヲ得ベシ

(二)○立法者ハ負債人ト債主トノ間ニ密通ヲ為シ之レガ為メニ該債主既ニ商業ヲ維持スル能ハサル負債人ヲシテ尚ホ表面ノ信用ヲ得セシムル為ニ故ラニ登記ヲ遅延

スルノ弊害ヲ豫防セリ蓋シ斯ノ如キ信用ハ他人ヲシテ負債人ノ現況ヲ誤認セシメ大ヒナル損失ヲ生スレハナリ

註二十五日ノ期限ハ登記ヲ為スベキノ地抵當物ノアル地ヲ距ルヽ一五万「メートル」「メートル」ハ大約我カ三尺コトニ一日ヲ増加ス

且ツ裁判所ハ登記ヲ遅延セシ場合ヲ認定スヘシ法律ニ遅延登記ハ必ラス之ヲ破毀スヘシト謂ハスシテ之ヲ破毀スルヲ得ヘシト云ヘリ遅延登記若シ債主之ヲ遅延セシ為メニ他人ヲ誤マラシメ損害ヲ釀モセシトキハ之ヲ破毀スルヲ要ス但シ已ムヲ得サル事故若クハ少クトモ許スヘキ理由アルトキハ此限ニ在ラズ

若シ管財人登記ノ遅延ハ他人ヲ誤マラシメ而シテ其損害ヲ釀モセシコトヲ證明セサルトキハ遅延ノ登記ハ其効ヲ有スヘシ

第四百四十九條○吾輩既ニ前項ニ言ヘリ満期負債ノ辨償ニシテ支償謝絶後ニ現金若クハ券書ヲ以テセシモノト雖ヒ債主其支償謝絶ヲ了知セシトキハ之ヲ破毀スヘシト然レトモ法律

ニ為替券書若クハ「ビエー、アイオルドル」ノ所有主ノ為メニ特規ヲ設立セリ乃チ為替券書若クハ「ビエー、アイオルドル」ヲ支償謝絶ノ期ト定メラレタル時日後ニシテ公布ノ宣告前ニ辨償セシトキハ設令支償謝絶ヲ了知セシ所有主タリトモ收領ノ金額ヲ返還スルヲ須ヒス

論者曰ク此券書ハ商事上一種ノ通貨ニシテ其融通ヲ禁スレハ多少ノ妨碍ヲ商事上ニ生出スヘシ若シ一旦收領セシ金額ヲ返還セザルベカラザルノ恐レアルトキハ衆人為替券書若クハ「ビエー、アイオルドル」ヲ收領スルヲ甘ンゼザルベシ若シ「ビエー、アイオルドル」ノ名當人又ハ署名人亡産ヲ為セシトキハ其所有主ニ名當人若クハ署名人ヨリ收領セシ金額ヲ辨償セシムルハ真ニ不條理ト謂ツヘシ何トナレハ所有主初メ此為替券書若クハ「ビエー、アイオルドル」ノ金額ヲ受ヘキ照會ヲ為セシトキ對手若シ其支償ヲ謝絶セシナレハ所有主ハ「プロテー」（券書ノ保任若クハ支償ヲ謝絶スルコトヲ保證セシムルモノ）ヲ為サシメ告訴セシナラン然ルニ實際支償ヲ為セシカ故ニ斯ニ至ラザリキ是

レ所有主カ設令支償謝絶ヲ了知セレニセヨ一旦領受セレ金額ヲ貶産合部ニ對シ償還スルヲ須ヒサルノ理由ナリ

註「リオム」裁判院ノ説ニ依レハ第四百四十九條ハ通商券書所有主カ負債人其辯償ヲ拒辞スルヲ以テ滿期ノ翌日「プロテ」ヲ為サシメ數日ヲ経テセヲ償ハシメタルトキニモ亦施行スヘキ律ナリ第四百四十九條ハ總テ差別ヲ立ツルヲ許サス千八百五十五年一月八日ノ決議及ヒ千八百五十五年十一月二十六日訴訟局ノ決議

法律ニ於テ金高取戻ノ訴訟ヲ為スハ為替券書ナレハ差立人又ハ券書讓渡人ニ對シ「ビエー、アルドルナレ」バ最初ノ裏書人ニ對シテセヲ為サシム但シ辯償ノ責ニ當タル者ノ券書ヲ融通セシトキニ支償謝絶ヲ了知セシコトヲ證明セシ場合ニ限ルベシ

試ニ問題ヲ改良シテ左ノ如クス

券書所有主ハ辯償期限ニ至リ名當人ニ之ヲ請求セシト雖トモ名當人其辯償ヲ拒辞シ券書ノ

プロテーヲ為セリ然ルトキ所有主ハ裏書人中ノ一名又ハ差立人ニ辨償ヲ請求セレヲ以テ請求ヲ受ケタル者ハ之ヲ辨償セン然ルニ若シ辨償人亡産公布ノ宣告ニ先タツ所ノ支償謝絶中ニ在リテ券書所有主之ヲ了知セシトキハ該所有主ハ金高取戻ノ訴訟ヲ受クヘキ歟裁判院ハ然リト決答セリ(二)其説ニ曰ク此事ニ就テハ金高取戻ノ訴訟ニ對シテ券書所有主ヲ保護スルコトニ立法者ヲ決心セシメタル別段ノ理由ヲ見ス所有主ハ既ニ券書ノプロテーヲ為サレ

メタリ而シテ券書辨償ノ要求ヲ為スヘキ順序ハ誰レニ向テ之ヲ為スモ全ク已レノ自由ニ在リ然ルニ他ノ記名人(シニテール)ヲ擇ハスシテ自ラ其支償謝絶ヲ了知セシ記名人ニ對シテ要求セシハ其誤失ニシテ譴責ヲ受クルモ允當ナルベシ

「テトー」氏ハ右ノ立論ヲ批擊シテ曰ク商法第四百四十九條ノ成文ハ簡約ニシテ裁判事例ニ依リテ為ス所ノ差別ヲ許セシモノト認ムルヲ得スト又此論ヲ維持セン為メニ第四百四十九條ヲ掲示セシメタル所ノ緊重ナル原由(吾輩ノ上

項ニ陳述セシモノ即チ通商券書ノ信用及ヒ融通ヲ確ナラシムル為メニ多少ノ保護ヲ之レニ附スベキノ冀望ヲ引用セリ

大審院ハ迫来数回ノ決議ヲ以テ前項ニ反スル論旨ヲ立タリ吾輩以前ノ刊行書中ニ既ニ之ヲ讀者ニ教示セリ蓋シ大審院ノ説ニ第四百四十九條ハ特ニ名當人ノ償還期限ニ為セシ支償ノ場合ノミニ於テ施行スヘキモノナリ然ルニ名當人之ヲ還償セサルトキ券書所有主ハ諸記名人中ノ一名ニ要用ノ照會ヲ為シ金ヲ償ハシメ

タルナレハ此辨金ハ無効ニ歸シテ商法第四百四十七條ニ依テ金高取戻ノ訴訟ニ係ルベキモノナリト今大審院ノ理由ヲ記スル左ノ如シ商法第四百四十七條ニ依リテ支償謝絶後ニシテ亡産公布ノ宣告前ニ満期負債ニ就テ負債人ノ為セシ支償ハ若シ金ヲ領取セシ者返債人ノ支償謝絶ヲ了知セシトキハ全ク無効ニ歸スヘシ是レ理由ノ一ナリ○右ノ一般規則ヲ脱シテ同法典第四百四十九條ハ若シ間接ナル券書所有主ヲ為替券書ノ辨償ヲ領受セシトキハ其金高

取戻ノ訴訟ハ為替券書ノ名當人ニ對スルニ非サレハ之ヲ為スヘカラスト定決シ且ツ券書ヲ融通セシトキ支償謝絶ヲ了知セシモノト認定セシナレハ此成規ハ立法者ノ定指セシ分界外ニ之ヲ擴張スヘカラス是レ理由ノ二十リ○第四百四百九條ノ成規ハ其理財論及ヒ談規ヲ立テタル精神ニ依テ償還期限ニ當テ名當人ノ為セシ支償ニ對スルニ非サルヨリハ之ヲ施スヘカラス是理由ノ三十リ此理由ヨリシテ左ノ三ツノ結果ヲ生セリ○第一通商券書ノ間接所有主（ナエール、ポルトヲル）ハ其金高取戻訴訟ノ責メヲ免カルヘシ何トナレハ間接所有主ハ償還ノ期限ニ至テ名當人カ辨償ヲ為セシトキハ法律ニ於テ「プロテーヨ」ヲ為スヲ得ス且ツ之カ為メニ「プロテーヨ」ヨリ生出スル要償權等ヲモ施行スルヲ得サルカ故ニ其領受シ來ル所ノ辨償ノ有効無効ノ責メニ任スベキモノト公告スルハ不正ナリト言ハザルヘカラス第三此場合ニ在テハ差立人金高拂戻ノ訴訟ヲ受クヘシ何トナレハ差立人ハ間接所有主ヲ經由シテ名當人ニ對スル債額ノ支償ヲ受ケ

タルカ故ニ此支償ヲ拂返スヘキモノハ差立人ニシテ間接所有主ニ非サルナリ第三差立人ハ券書ヲ融通セシトキ支償謝絶ヲ了知セシニ非ルヨリハ金高拂戻ノ訴訟ヲ受クヘキモノニ非ス然ルニ此ハ名當人ニ関スルニ非サルヨリハ行フヘカラザルモノナリ○間接所有主ハ名當人ニ對シ為替券書ノプロテヽヲ為サシメタル後所有主ニ對シ干連ノ責任ヲ有スル諸記名人ニ保證物ヲ要求スルノ訴訟ヲ為セシトキハ上項ノ成規ハ其理由ヲ失ヒ施行スヘカラサルモ

ノタルヘシ是レ理由ノ四十リ此場ニ於テハ所有主ハ自ラ撰定シ得ル所ノ干連責任者中ノ一人ニ對シ要求ヲ為スノ自由ヲ存シ而シテ其既ニ領受セシ支償ニ就テハ負債人ノ亡産ニ関スル他ノ諸債主ニ普通ナル法律ニ準従セサルヲ得ス且ツ他ノ干連責任者ニ對シ要償權ヲ施行若クハ保存セザリシ責ヲ負ハサルヘカラス又一方ニ在テハ差立人ハ裏書人ノ為替券書ヲ融通セシ後取引ヲ為セシ者ノ亡産ノ連接ニ就テハ更ニ責任ヲ有セス又已レノ領受セス并ニ利

益ヲ有セサリシ所ノ支償ヲ拂戻スニ及ハサル
ナリ（千八百六十七年五月十五日民事局ノ決議
同月同日同局ノ他ノ二ツノ決議千八百六十七年十一
月二十七日大審院ノ決議同日同院他ノ一ツノ決
議及ヒ千八百六十八年十二月九日民事局ノ決
議）

前項同一ノ諸主義ニ依レル大審院ノ決議ニ曰
ク第四百四十九條ニ掲載セル特規ヲ「ビエー、ア、
オルドル」ニ就テ施行スルハ左ノ場合ニ限ルヘ
シ裏書ノ方法ニ依テ「ビエー、ア、オルドル」ヲ融通

セシトキ其所有主ハ券書ノ償金期限ニ於テ署
名人ノ約定セシ金額ヲ受ケ而シテ他ノ干連責
任者ニ對シ「プロテー」ヲ為サシムルコトヲ得ス
要求ヲ為スコトヲ得サル場合并ニ「ビエー、ア、オ
ルドル」諸人ノ手ニ通融セラレザル内ハ已レノ
為メニ券書ノ作ラレタル者ハ差立人直接ノ債
主ニシテ其領受セシ支償ハ第四百四十七條ノ
一般ノ規則ニ從準スヘキ場合皆是レナリ（千八
百六十七年五月十五日民事局ノ決議）
又同院ノ決議ニ曰ク支償謝絶ノ期ナリト認定

セシ時日後ニシテ亡産公布ノ宣告前ニ支償セラレタル為替券書ノ所有主ヲシテ金高拂戻ノ責メヲ免カレシムル所ノ商法第四百四十九條ハ間接所有主ニ非サルヨリハ之ヲ施用スルヲ得ス

是故ニ間接所有主カ名當人ニ對シテプロテストヲ為セシ後ニ為替券書ノ歸着セシ所ノ者ニ為サレタル支償ハ第四百四十七條ノ成規ニ準從シ而シテ若シ之ヲ受ケタル者負債人支償謝絶ノ實況ヲ了知セシコトナレハ無効ニ歸シ返金スベキモノトス（千八百六十七年五月十五日并ニ千八百六十五年十二月十八日大審院ノ決議ヲ參看スヘシ）

最モ通商券書ノ間接所有主ハ一旦其プロテストヲ為セシ後チ該券書ノ拂方ニ對シ負債人ヨリ他ノ券書ヲ受ケタルトキハ後ニ受ケタル券書ニ就テ間接所有主タルノ性質ヲ失フハ言フヲ待サル十リ然ルトキハ直接尋常ノ債主トナリテ嗣後第四百四十七條ノ成規ニ從準スベキモノトス（千八百六十八年五月十九日訴訟局ノ決

議并ニ千八百六十七年五月十五日大審院ノ決議ヲ參看スヘシ

第二章 主任判事授任之事

吾輩ハ前章ノ説明中ニ於テ既ニ亡産公告ニ関スル事項及ヒ裁判上ノ公告ニ依リ若クハ支償謝絶ノミニ因リテ生出シ来ル能力ヲ見タリ因テ吾輩ハ是レヨリ亡産ノ場合ニ於テ商事裁判所ノ為スベキ権宜ノ處分ヲ知ラシメントス而シテ其處分中ニ主任判事授任ノ件項アリ即チ本章ニ開載スル所是レナリ

第四百五十一條及ヒ第四百五十四條○亡産公告ノ言渡ヲ為ストキ商事裁判所判事中ノ一人ヲ以テ主任判事トナスベシ(一)該判事ノ職務ハ受任ノ日刻ヨリ始マリ亡産人「コンコルダ」(債主ト債人トノ間ニ示談ヲ以テ定結スル條約)ニ依テ營業ヲ復スルヲ得ルマデ若クハ確實ノ決算ヲ為スニ至ルマテ之ニ任スベシ

註商事裁判所ノ判事補モ亦本官ノ如ク亡産ノ主任判事タルヲ得ヘシ然ルトキハ判事補ハ公審ノ際上申書ヲ裁判所ニ差出スヲ要シ判事三名アルトキト雖モ發論投票ノ權ヲ有ス

官吏拒辭ノ要點ハ特ニ之ヲ主任判事ニ施スヘシ乃チ其主任判事ヲ拒辭セサル可カラスト信スル所ノ亡産管財人ハ判事授任言渡ノ日ヨリ三日ヲ限リ之ヲ拒辭スヘシ

其陳告スル所商事裁判所ハ之ヲ允當ト信スルトキハ何時ニテモ裁判所ノ別員ヲ以テ更メテ主任判事ト為スコトヲ得ヘシ而シテ此決議ハ之ヲ控訴スルノ道ナシ（書式第百三十四号及ヒ第百三十五号）

註新主任判事授任ニ就テ亡産人ヨリ亡産管財人ニ對シ訴訟ヲ為ストモ之ヲ受理スヘカラサルモノトス

第四百五十二條○主任判事ノ職務ハ自ラ主管ヲ為スニ非スシテ亡産ノ諸管財人ノ處分ヲ督促シ若クハ之ヲ監察スルニ在リ乃チ其一二ヲ擧ケンニ諸債主ノ普通利益ニ関スル評議ヲ監督シ（商法第五百四條及ヒ其次條）負債ノ檢査ニ監臨シ（商法第四百九十三條「コンコルダノ商議」ヲ聞キ同ク五百七條及其次條）債主間ニ施行スヘキ亡産金ノ分配ヲ命令ス（商法第五百六十條）

及ヒ亡産ヨリ生出セル若情ニシテ商事裁判所ノ權内ニ在ルモノハ總テ該裁判所ニ上申スル等是レナリ（商法第四百五十二條第二項）

註主任判事ノ申報ハ緊要ニシテ此申報ナキ裁判宣告ハ無効タルベキヤ否ヲ知ルノ問題ニ就テハ裁判事例モ各々異ナル所アリ「レン又」ノ裁判院ノ説ニ曰ク主任判事ノ申報ヲ要スルノ規則ハ裁判上公衆利益ノ為メニ掲定セシモノニシテ甚タ要重ナリ故ニ之ニ注意セスシテ裁判宣告ヲ為ストキハ無効ニ歸スベシ（千八百四十七年ノ決議）議者ハ大抵此説ヲ取レリ然レトモ「ボルドー」ノ裁判院ハ反對ノ説ヲ立テ曰ク商法第四百五十二條ニ依リテ主任判事ニ任シタルノ上申ハ之ヲ欠クト雖トモ裁判ノ無効ヲ致タス者ニ非ス蓋シ上申ハ事情ヲ明白ニスルノ一端ニシテ判決ノ精神ヲ助クルモノタルニ止マル（千八百五十四年八月十六日ノ決議）吾輩ハ第一説ヲ以テ允當トナス○「モントペリエー」ノ裁判院モ亦善ク吾輩ノ意ノ如ク決シテ曰ク主任判事ハ檢

査ノ申報ヲ為スモノニシテ検査判事タルノ任ヲ盡クスヘシト（千八百五十年六月二十八日ノ決議）

且ツ主任判事ハ亡産ノ原由ヲ究明スルヲ以テ任トス報告スルノ責任ヲ有セス唯亡産人許偽ノ罪ヲ犯セシコトヲ發見セシトキハ之ヲ商事裁判所ニ告知スルノミ

凡ソ亡産ニ干連スル諸人ハ主任判事ノ指令ニ對シ控訴ヲ為スコトヲ得ス然レトモ之ヲ為シ得ヘキ特別ノ場合アリ（商法第四百六十六條第四百七十四條第五百三十條及ヒ第五百六十七條参看）然ルトキハ主任判事所属ノ商事裁判所ニ之ヲ控訴スベシ（書式第百三十六條及ヒ第百三十七條ヲ参看スヘシ）

第三章財産ヲ印封スルコト及ヒ亡産人ノ身體ノ處置

此章ハ二項ノ假處分ヲ論ス即チ財産ノ印封及ヒ亡産人ノ拘留是レナリ

第四百五十五條第四百五十七條第四百五十八條○第一財産ノ印封○亡産ヲ公告スヘキ言渡書ニ曰リ裁判所ハ財産ヲ印封スルコトヲ令スベシ（商法第四百五十五條第一項）此處置ハ亡産人ガ財産ヲ隠匿スヘキコトヲ豫防スルヲ以テ目的トナス

印封ヲ命スル所ノ裁判宣告ヲ為スヤ商事裁判所ノ書記官ハ封印貼付ヲ任スル治安判事ニ此事ヲ報知スルヲ要ス

且ツ法律ハ治安判事ニ許スニ裁判宣告前タリトモ其職分ニ曰リ若クハ債主一名又ハ數名ノ請求ニ曰リテ印封ヲ貼付スルコトヲ以テス但シ二項ノ場合ニ限ル即チ負債人逃亡セシ時及ヒ貸金額ノ全額若クハ一部分ヲ隠匿セシ時是レナリ

印封ハ之ヲ亡産人ノ倉庫、舗店、金櫃、書類挾、帳簿、

書類家財(モブル)及ヒ什器(ムビリアール)ニ施スヘシ

合名會社ノ亡産ヲ為セシトキハ徒ニ其本店ニ印封ヲ為スノミナラス社員ノ居所ニ印封ヲ為スヘシ

若シ會社ハ差金會社タルトキハ共同ノ住所及ヒ倉庫并ニ屋舍ニ印封ヲ為スヲ要ス若シ主管者別所ニ住スルトキハ同々各名ノ住所ニ印封ヲ為スヘシ

治安判事裁判所ノ宣告ニ依リ若クハ其職務ニ因リ或ハ諸債主ノ要求ニ依リテ印封ヲ為セシ

トキハ直チニ之ヲ商事裁判所長ニ報告スヘシ

主任判事若シ亡産人貸金ノ目録ヲ一日内ニ記載シ得ルト信認スルトキハ印封ヲ為スヲ須タズシテ直チニ其目録ヲ記載スルコトニ着手スヘシ(一)此規則ハ些少ノ亡産ニ就テ時間ト費用トヲ減省スルヲ目的トセリ(書式第百三十八條)

註(一)亡産公告前ニ一二名ノ債主既ニ負債人ノ家財及ヒ商品ヲ抑留セシトキハ主任判事ハ印封ヲ為スヘカラザルヲ命スルノ権利ヲ有ス公書人編成ノ抑留調書(訴訟法第五百八

十八條及ヒ其次条参首及ヒ保護人ノ設立同
法第六百九十六條及ヒ其次條ヲ以テ隱匿ヲ
十分防禦スルヲ得ヘシ
上項ノ規則ハ新問題ヲ釀出シテ各種ノ異見ア
リ即チ印封ヲ為スコトヲ免セシ場合ト雖ヒ治
安判事ハ目録ノ編成ニ會同スルヤ否ヤノ問題
是レナリ
第一説○此擬案ニ就テハ治安判事ノ會同ハ甚
タ緊要ナラズ他ノ諸擬案ニ就テ治安判事ノ封
印ヲ貼示スルハ目録編成ニ至ルマテ貸金額保

存ノ為メナリ又目録編成後之ニ関スルハ封印
除去ノ場合ニ限ルナリ
第二説○治安判事ハ必ス目録編成ニ會同セサ
ルヘカラス第四百五十五條ハ其豫示セル場合
ニ就テ編成スヘキ目録ノ書式ヲ定示セズ之カ
規則ヲ立ル所イ第四百八十條ニ依ルニ非サレ
バ目録ヲ編成スルヲ得サルヘシ若シ治安判事
カ封印貼付ニ干渉スルハ特ニ目録編成ノ期マ
テ貸金額ヲ保存スルニ過キストセハ封印除去
ノ調書ヲ編成スルヲ以テ足レリトセン然ルニ

第四百八十條ハ治安判事ノ自ラ目録調成ニ會同シテ署印スルヲ望メリ且ツ治安判事ノ出席ハ諸債主ノ一保護タリ

第二亡産人ノ拘留○亡産ヲ公告スヘキ宣告書ニ依テ裁判所ハ負債ノ為ニ亡産人ヲ獄舍ニ拘留スル事或ハ警察吏司法官吏若クハ警視兵ニ其亡産人ヲ預ク可キ事ヲ命スヘシ(商法第四百五十五條第一項)

註亡産人ハ満七十歳以上ノ者ト雖ヒ獄舍ニ下スヲ得ヘシ但シ此場合ニ在テハ身體禁錮(コントラインツ、パールソナール)ニ就テ設立セシ規則ヲ用フヘカズ(千八百四十七年十二月二十三日巴里裁判院ノ決議)

亡産ハ必スシモ犯罪ニ係ルモノニ非スト雖ヒ此災害ニ罹ルハ其源因訴偽若クハ他ノ罰スヘキ過誤ニ出テタルカヲ検査セザルヘカラス是レ亡産人ノ身體ヲ警護スルヲ要スル所以ナリ

當テ身體禁錮ノ行ハレシトキハ亡産人ニ對シ負債ノ如何ナル種類タリトモ「エクルー」(一)及ヒ「コンマンダシヨン」(二)ヲ施行スルコト無カリシ(商法第四百五十五條第三項)(三)

註(一)「ロクル」ハ獄舍ノ公簿ニ記載スベキ調書ニシテ負債人ノ監護ヲ獄卒ニ委シ先キニ拘留ヲ行ヒタル者ノ任ヲ解クモノナリ

立法者ハ千八百六十七年五月十五日ノ讀會ニ於テ身體禁錮ノ廢棄ヲ投票シ千八百六十七年七月二十二日之ヲ布告セリ

(二)「ロコンマンダンヌ」ナルモノハ原告人ノ請求ニ因リテ拘留セラレタル囚人ノ外出ヲ禁止スルノ公狀ナリ

(三)里溫裁判院ノ說ニ依レハ亡產人ノ際亡產人ニ對シテ亡產公告後ノ負債ノ為メニテモ身體禁錮ヲ施スヲ得ス又巴里及ヒ壞(ナンシー)西ノ裁判院ノ說ニ依レハ刑罪若クハ註違罪ニ關スル償金及ヒ費用ノ為メタリトモ之ヲ命スルヲ得ス

亡產ヲ公告スヘキ宣告ヲ為セシ以往ハ亡產人ノ身體ニ就テ各債分離シテ各自ニ訴訟ヲ為スコトヲ得ス身體禁錮ナルモノハ債主ガ負債人ノ謝絕スル所ノ支償ヲ要求スル為メニ行フ所ノ壓抑ノ法ナリ然ルニ亡產人既ニ其敗產ノ主

管ヲ禁セラレタル以往ハ設令支償ヲ為ストモ無効ニ歸スルカ故ニ身體禁錮法ヲ行フトモ更ニ効験ヲ有セザルヘシ

第四百五十九條及ヒ第四百六十條○負債ノ為ニ亡産人ヲ獄舍ニ入ルヽコト或ハ身體ノ警護ヲ命スルハ亡産管財人又ハ其地ノ民事裁判所検事ノ求メニ依リテ之ヲ為スヘシ

故ニ商事裁判所ノ書記官ハ二十四時間内ニ上項ノ職ヲ盡スヘキ裁判官吏ニ亡産公告ノ宣告ノ撮要書ヲ送達スヘシ但シ此撮要中ニ宣告中ノ要旨ヲ登記スベシ

第四百五十六條○亡産人自ラ商法第四百三十八條及ヒ第四百三十九條ニ準シ其計算書ヲ附シ亡産ヲ報告スルトキハ裁判所ハ其身體ノ警護ヲ放免スルコトノ權利ヲ有スヘシ○該規則ノ目的ハ亡産人ヲシテ自ラ亡産ノ實況ヲ報告セシムルニ在リ

然レトモ身體禁錮法ノ未タ廢止セラレサリシトキハ亡産人自ラ亡産ヲ報告セシトモ若シ既ニ一二名ノ債主ノ訴訟ニ係ルトキハ裁判所ハ

上項ノ權利ヲ有セサリキ

當時論者ノ説ニ曰ク亡産人ニ禁獄若クハ警護ヲ放解スヘキ裁判所ノ權利ハ突然亡産ヲ報告シタル亡産人ニ對スルトキニ限リテ之ヲ施行スルヲ得ヘシ故ニ既ニ訴訟ニ係リテ身體禁錮ヲ逃カルヽカ為メニ自ラ亡産ヲ報告スルニ於テハ誠心ヨリ起リテ之ヲ為セシニ非ズ則チ彼ノ權利ヲ利スルヲ得サル所以ナリ(五項前ノ註(二)印ノ第二項ヲ參看スヘシ)

然レトモ亡産人ニ禁獄若クハ警護ヲ放免スル

ノ裁判宣告ノ規則ハ事宜ニ因レハ商事裁判所其職務ニ因リテ亡産公告後ニ之ヲ施行スルヲ得ヘシ

第四百七十二條及ヒ第四百七十三條○亡産人ヲ拘留スルハ唯公同利益ノ為ニスルヲ以テ之ヲ保續スヘキ正理及ヒ緊要無キト認メタル以往ハ之ヲ停止セザルヘカラズ則チ主任判事ハ亡産人ノ營業ノ情況ニ因リ若シ忌疑スヘキ事項無キトキハ保釋金ヲ收メ若クハ直チニ放免スルヲ得ヘシ但シ保釋金額ハ裁判所ノ定ムル

所ニシテ若シ亡産人後日不参等ヲ為ストキハ之ヲ諸債主ニ與フベシ（書式第百二十九号及ヒ第百三十三号ヲ参看スヘシ）

若シ主任判事右ノ放免ヲ発言セサルトキハ亡産人商事裁判所ニ之ヲ請求スルヲ得ベシ然ルトキ裁判所ハ先ツ主任判事ノ意見ヲ質シテ公會ヲ開テ之ヲ決スヘシ（書式第百三十條参見）○

凡ソ債主ハ宥免狀（ゾーフ、ゼッテ）ノ付與ヲ抗拒スルノ權利ヲ有ス（書式第百三十一号）

主任判事ノ發議若クハ亡産人ノ請求ニ依テ商事裁判所ハ亡産人ニ自由權ヲ還與シ及ヒ假宥免ト名クル所ノ事ヲ許セシト雖モ（書式第百三十二号）後日理由アルトキ（例ヲ擧ンニ亡産人詐偽アリテ新タニ發覺セシトキノ如キ是レナリ）何時ニテモ裁判所ハ職務ヲ以テ又ハ主任判事ノ發議ニ依リ若クハ債主ノ請求ニ依リテ右ノ特典ヲ剝奪スルヲ得ベシ

千八百零七年ノ法典施行ノ際ニ既ニ發動シ千百三十八年來再興セシ問題ハ商事裁判所ハ亡産公告言渡前既ニ債主ノ訴訟ニ係リシ亡産人

ニ假宥免ノ特典ヲ附與スルヲ得ルヤ否ヤノ問題是レナリ

註此問題ハ商事件ニ就テハ身體禁錮法ノ廢棄セラレシ以往ハ從前ノ如ク必要ノモノニ非ス

第一説○裁判所カ亡産人ニ自由ヲ附與スルハ商法第四百三十八條及ヒ第四百三十九條ノ成規ニ依リテ亡産人ヨリ亡産ヲ報告スルコトヲ要スルノミナラズ且ツ亡産報告ノ際未タ債主ノ訴訟ニ係ラサルヲ要ス（商法第四百五十六條）

故ニ裁判所ハ亡産報告前既ニ訴訟ニ係リシ者ニ宥免狀ヲ與フルヲ得ス法律ニ於テ負債人ニ與フベキ恩惠ヲ以テ既ニ身體禁錮法ヲ施行セシ債主ノ權利ヲモ破毀スルヲ望マザリキ

第二説○吾輩ノ説ニ於テハ商法第四百五十六條ノ成規ハ亡産人亡産ヲ報告シタルトキ未タ債主ノ訴訟ニ係ラザルニ非サルヨリハ禁獄若クハ警護ヲ放ツコトヲ許サスト雖モ亡産公告後裁判所ハ亡産ノ實況ヲ査照シテ自由權ヲ附與スルニ妨ケス第四百五十五條第四百五十六條

ハ特ニ亡産ヲ公布スベキ宣告ニ依リテ亡産人ニ對シテ為スベキ處分ヲ裁定セシノミ且ツ實際更ニ身體禁錮ヲ施行スヘキ所ノ債主ノ權利ヲ剥奪スルコトナシ何トナレバ夫權ヲ釀出スル亡産公告ヲ為セシ以上ハ禁錮法ハ最早之ヲ施コセシ者ノ用ヲ為サス何トナレハ亡産人ハ一タヒ公告ヲ経ル後ハ自ラ支償ヲ為スコトヲ得サレハナリ故ニ禁錮ヲ施行セシ債主ハ之ヲ行ハザル債主ヨリ先得ノ剩益ヲ有ストスルハ法律自ラ矛盾スルモノトヱフベシ

亡産公布ノ宣告及ヒ宣告ノ貼示新聞紙ノ掲示印封ヲ為スコト亡産人ノ拘留及ヒ禁足等並ニ費用ヲ要セリ亡産人ニ屬スル資金ハ現今其費ヲ償フヲ得ザルトキハ主任判事ノ命令書ニ依テ暫時官金ヲ支出スベシ而メ亡産人ノ辦償ヲ得ルトキハ隨一ニ之ヲ辦償セシムベシ但シ賃房主ノ特權ヲ妨碍スルコトナシ蓋シ賃房貸地ニ在ル所ノ亡産人ノ不動産上ニ有スル權利ハ更ニ亡産ノ處分ニ関係ヲ有セサレハナリ○此官費代償ヲ許スノ旨意ハ亡産ノ茅一回ノ處分ヲ

レテ易カラシメ亡産公布ノ宣告ヲ延捱スルノ害ヲ除クニ在リ蓋シ昔年ハ此一回ノ融通金ナキ故ニ宣告ヲ延捱スルノ害極メテ多キヲ以テ十リ書式第百三十九号参看

第四章假定亡産管財人授任及ヒ放任ノ事

亡産公告ノ言渡ヨリ亡産人ノ失權ヲ釀出セシヲ以テ其財産ノ管理ヲ他人ニ委托セサルヘカラス即チ其管理人ヲ撰ムヲ要スルナリ因テ本章ニ於テハ亡産管財人ト稱シ亡産人ノ財産ヲ管理スヘキ人員ノ授任轉任放任ノコトヲ論述セントス

第四百六十二条及ヒ第四百六十三条○亡産管財人ハ諸債主ノ利益ニ就テ負債人ノ財産ヲ管理スル為ニ授任セラルヽガ故ヲ以テ其撰定ハ專ラ諸債主ノ所見ニ由ラザル可ラサルガ如シト雖モ亡産公布ノ宣告ヲ為スノ際諸債主ハ各所ニ散在セル者アラン故ヲ以テ裁判所ハ亡産公布ノ宣告ト均シク假リニ管財人ヲ授任シ亡産人ノ財産ヲ保存セシメ其初頭ノ處分ヲ為サシムルヲ要ス

此初頭ノ主管人ヲ假定亡産管財人ト稱ス

假定亡産管財人ハ上章ニ開載セシ所ノ封印貼付亡ヒ亡産人ノ拘留ニ關スル方法ノ外ニ最モ

緊要ナル他ノ亡産處分ヲ為シ得ベシ

然レトモ假定亡産管財人ハ諸債主ニ商議セズシテ一時之ヲ授任スルカ故ヲ以テ成ル可ク速カニ諸債主ノ意見ヲ問質シテ更ニ主管人ヲ撰定スルニ注意スヘシ

是故ニ主任判事ハ凡ソ債主ト識認スル所ノ者ヲ成丈速カニ招集スルヲ要ス但シ十五日ヲ過クヘカラス（書式第百四十号参看）

主任判事ノ招集セシ諸債主及ヒ招集ヲ須タスシテ自ラ來集セシ諸債主カ悉皆會同セシトキ

ハ該判事ハ各債主ノ現況及ヒ新管財人ノ選任ヲ商議スヘシ然ルトキハ各人ノ所見及ヒ注意ニ就テ案書ヲ作リテ商法裁判所ニ進呈スヘシ（書式第百四十一号参看）裁判所ハ該案書ノ要旨諸債主ノ現況及ヒ主任判事ノ申報ニ依リテ（書式第百四十二号参看）新ニ亡産管財人ヲ撰任シ又タ假定亡産管財人ヲシテ其職ヲ保持セシム（書式第百四十三号参看）

新任若クハ保職ノ亡産管財人ハ乃チ確定ノモノト為ス（一）然レトモ吾輩後項ニ説明スル所ノ